

# 町田市

## 教育プラン 24 - 28

自ら学び、あなたと学び、  
ともに創る町田の未来





## はじめに

町田市教育委員会では、教育基本法第17条第2項に基づき、2009年に第1期「町田市教育プラン」を策定し、現在まで第3期となる「町田市教育プラン 2019-2023」を着実に実行し、本市の教育施策を推進してきました。

現在、教育を取り巻く状況は目まぐるしく変化しており、DX の進展や子どもの権利や多様性を尊重する社会認識の醸成、持続可能な社会を目指す SDGsの理念の浸透などの社会環境の変化や、令和の日本型学校教育の構築、GIGA スクール構想などの国による教育に関する施策の変化など、基礎自治体においても環境変化への対応が求められています。

そのような背景を踏まえ、町田市教育委員会では、第4期となる「町田市教育プラン 24-28」を策定しました。

本計画の基本的な方向性として、国の第4期教育振興基本計画、町田市の児童生徒・保護者・教員のニーズ、次期計画で取り組むべき課題を踏まえ、教育目標を「自ら学び、あなたと学び、ともに創る町田の未来」としました。

この教育目標を実現するためには、全市民が生涯にわたって学び続ける学習者としての土台を学校教育にて培うとともに、いつでも学ぶことができる環境を生かし、生涯を通して学び続けていくことが必要となります。

このようなことから、教育目標の実現に向けて、「学び続ける力」を基本方針、施策及び重点事業に組み込む要素にするとともに、市民がライフステージに応じて切れ目なく必要な知識や技術を身に付けることなどができるように、生涯学習と学校教育の施策を同じ方針に織り込みました。

また、町田市の特徴を最大限に活かし、持続可能で魅力があり、教育に関わる全ての人が満足感を得られる計画とするため、「デマンドサイド」「経営」「独自性」の3つの視点を計画策定にあたり必要な視点としました。

それらの要素、視点を満たした4つの基本方針における13の施策及び42の重点事業の取り組みを通じて、町田市の学校教育並びに生涯学習を推進し、教育目標の実現を目指してまいります。

最後に本計画の策定にあたり、貴重なご意見をいただいた関係者の皆様をはじめ、アンケート調査・市民意識調査やパブリックコメントの過程でご協力いただきました市民の皆様にご心よりお礼申し上げます。

市民の皆様には、引き続き町田市の教育へのご協力、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2024年3月

町田市教育委員会



---

---

# 目次

---

---

## 第1章 計画の概要..... 7

- 1 計画策定の主旨..... 7
- 2 第1期から第3期までの町田市教育プランについて..... 7
- 3 計画の位置づけ..... 8
- 4 計画の期間..... 9
- 5 計画の推進体制..... 9

## 第2章 町田市の教育を取り巻く現状と課題..... 12

- 1 第3期計画の振り返りからみた現状..... 12
- 2 教育環境を取り巻く状況..... 23
- 3 町田市の現状からみた課題の整理..... 26

## 第3章 基本的な方向性..... 28

- 1 教育目標..... 28
- 2 基本方針・施策に組み込む要素「学び続ける力」..... 30
- 3 生涯学習推進計画の教育プランへの統合..... 31
- 4 計画策定にあたり必要な視点..... 32
- 5 基本方針と施策の体系..... 33

## 第4章 施策及び今後の取組..... 40

### 基本方針 I 未来を切り拓くために生きる力を育む

- 施策1 確かな学力を身に付ける..... 40
- 施策2 未来を見据えた特色ある学びを推進する..... 48
- 施策3 生涯を通じて健やかに過ごせる体を育成する..... 62
- 施策4 他人への理解、豊かな心、思いやりを育む..... 70
- 施策5 学びのきっかけとなる機会を提供する..... 76

## 基本方針Ⅱ 一人ひとりの多様な学びを推進する

施策1 不登校児童生徒への支援を推進する.....	84
施策2 一人ひとりの特性に応じた特別支援教育を推進する.....	89
施策3 誰もが学べる機会を提供する.....	93

## 基本方針Ⅲ 将来にわたり学ぶことができる環境を整備する

施策1 将来を見据えた多様な学びの環境を整備する.....	102
施策2 学び続けることができる環境を整備する.....	118

## 基本方針Ⅳ 地域とともに学ぶ力を高める

施策1 学校と地域が連携した学びを推進する.....	126
施策2 地域での学びを推進する.....	134
施策3 教員の働き方を改善する.....	142

## 資料編.....151

### 関連計画

1	新たな学校づくり推進計画	P108	2	町田市立小・中学校における働き方改革プラン	P144
---	--------------	------	---	-----------------------	------

### まちだ教育コラム

1	「ウェルビーイング」	P29	12	子どもの育ちを支える体制	P88
2	「個別最適な学び」「協働的な学び」とは	P41	13	特別支援教育	P91
3	学び続ける力の育成の鍵は放課後にアリ！	P47	14	幼保小連携	P92
4	デジタル化の現代において、学校は必要か！？	P49	15	教室の中にある多様性	P95
5	英語によるコミュニケーションを楽しもう！	P52	16	新たな学校づくりを一緒に考えよう	P111
6	STEAM 教育とは？	P55	17	電子書籍サービス	P117
7	キャリア教育で育む力	P59	18	町田の歴史をいつでもどこでも知る！見る！楽しむ！「町田デジタルミュージアム」	P119
8	児童生徒の「つまずき」の原因を探る	P61	19	いつでも誰でも学べるまちだを目指して	P121
9	小学校・中学校9年間の学校給食を活用した食育の推進	P69	20	地域学校協働活動をブラッシュアップしていきます！	P129
10	「子どもにやさしいまち」を目指して	P71	21	リカレント教育	P141
11	不登校児童生徒への支援	P85	22	教員の持続可能な働き方を目指して	P143

# 第1章 計画の概要

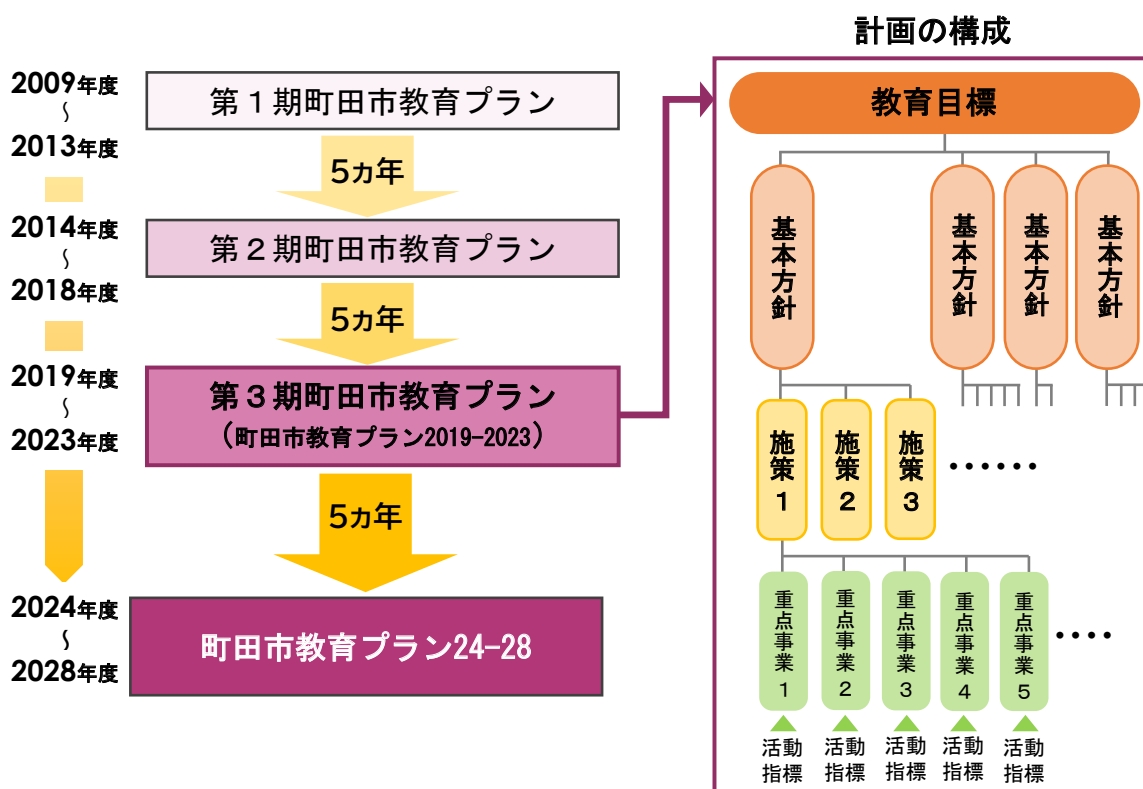
## 1 計画策定の主旨

町田市教育プラン 24-28(以下本計画とする)は、本市の教育を振興することを目的とした5年間の基本的な方針を定め、その実現に向けて取り組むべき施策・重点事業を、本市の現状や社会情勢、国・都の方針などを踏まえて策定、推進するものです。

## 2 第1期から第3期までの町田市教育プランについて

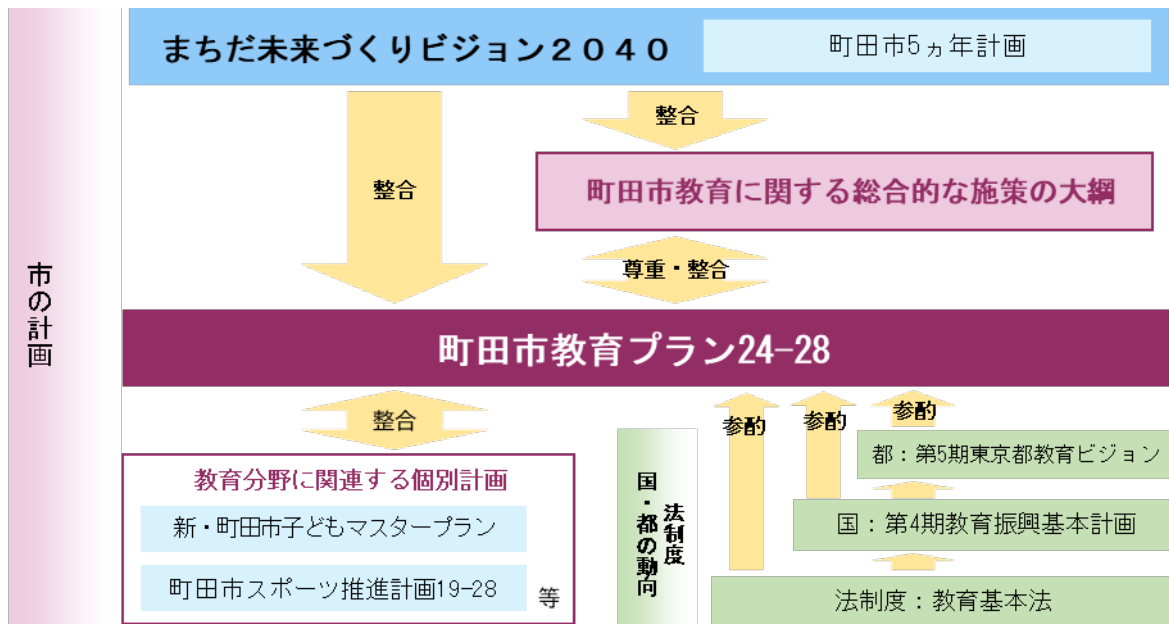
町田市教育委員会は、教育基本法に基づき国が策定した教育振興基本計画を参酌し、2009年2月に第1期「町田市教育プラン」(2009年度～2013年度)を策定しました。続いて2014年2月に第2期「町田市教育プラン」(2014年度～2018年度)を、2019年2月に第3期となる「町田市教育プラン2019-2023」を策定しました。

「町田市教育プラン2019-2023」では、「夢や志をもち、未来を切り拓く町田っ子を育てる。生涯にわたって自ら学び、互いに支え合うことができる地域社会を築く。」という教育目標を掲げ、その実現に向け4つの基本方針と14の施策、44の重点事業を設定し、本市の教育政策を推進しています。



### 3 計画の位置づけ

本市の基本構想・基本計画である「まちだ未来づくりビジョン2040」（2022年度～2039年度）及び「町田市5ヵ年計画22-26」（2022年度～2026年度）の目標を実現するための、市の教育分野の総合的な計画として位置づけ、その他の本市の教育分野に関わる個別計画等との整合性を図るものとします。



#### ■町田市教育に関する総合的な施策の大綱と町田市教育プランの関係

町田市教育に関する総合的な施策の大綱（以下教育大綱とする）と、町田市教育プランの教育目標、基本方針との関係やその内容については、総合教育会議などにおいて市長と教育委員会が協議・調整を行った上で、策定します。教育大綱と教育プランの関係を整理すると以下のとおりとなります。

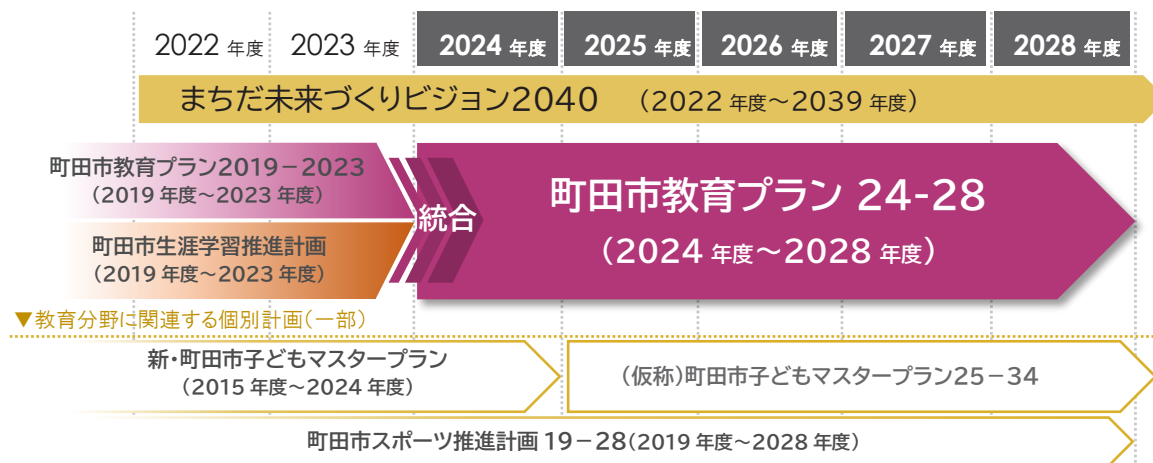
	町田市教育に関する総合的な施策の大綱	町田市教育プラン 24-28
根拠法令 ▶	地方教育行政の組織及び運営に関する法律	教育基本法
策定主体 ▶	地方公共団体の長（総合教育会議において協議）	地方公共団体
策定方法 ▶	国の教育振興基本計画を参酌し、その地域の実情に応じて策定	
範囲 ▶	地方公共団体の教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の教育大綱	地方公共団体における教育の振興のための施策に関する基本的な計画



## 4 計画の期間

### ■本計画及び他計画の期間

本計画の計画期間は、2024年度から2028年度までの5年間です。



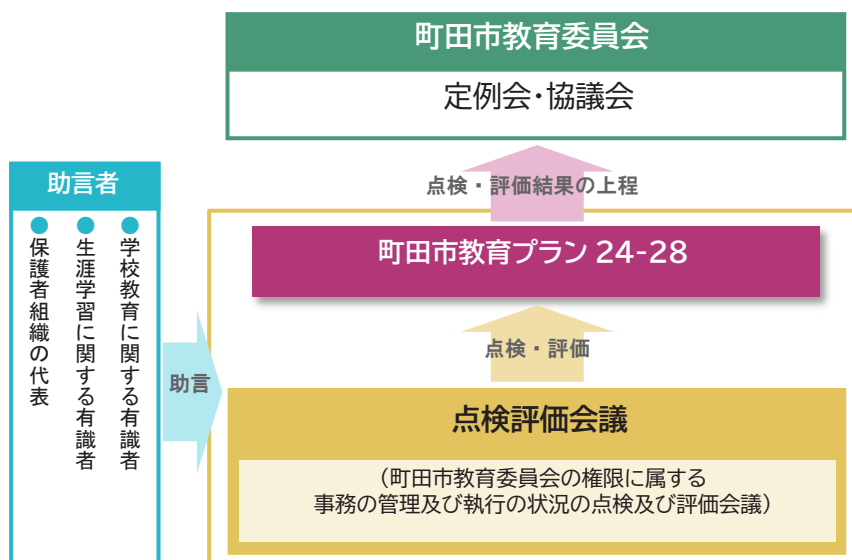
## 5 計画の推進体制

本計画の推進にあたっては、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第26条に基づき実施する「町田市教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価会議」(以下点検評価会議とする)にて、毎年度各取組の評価を実施し、次年度の取組に生かしていきます。

また、点検評価会議では、教育に係る専門的な知見及び保護者の視点から助言者に助言をいただきます。

点検及び評価結果については、教育委員会定例会にて議案として審議された後、公表いたします。

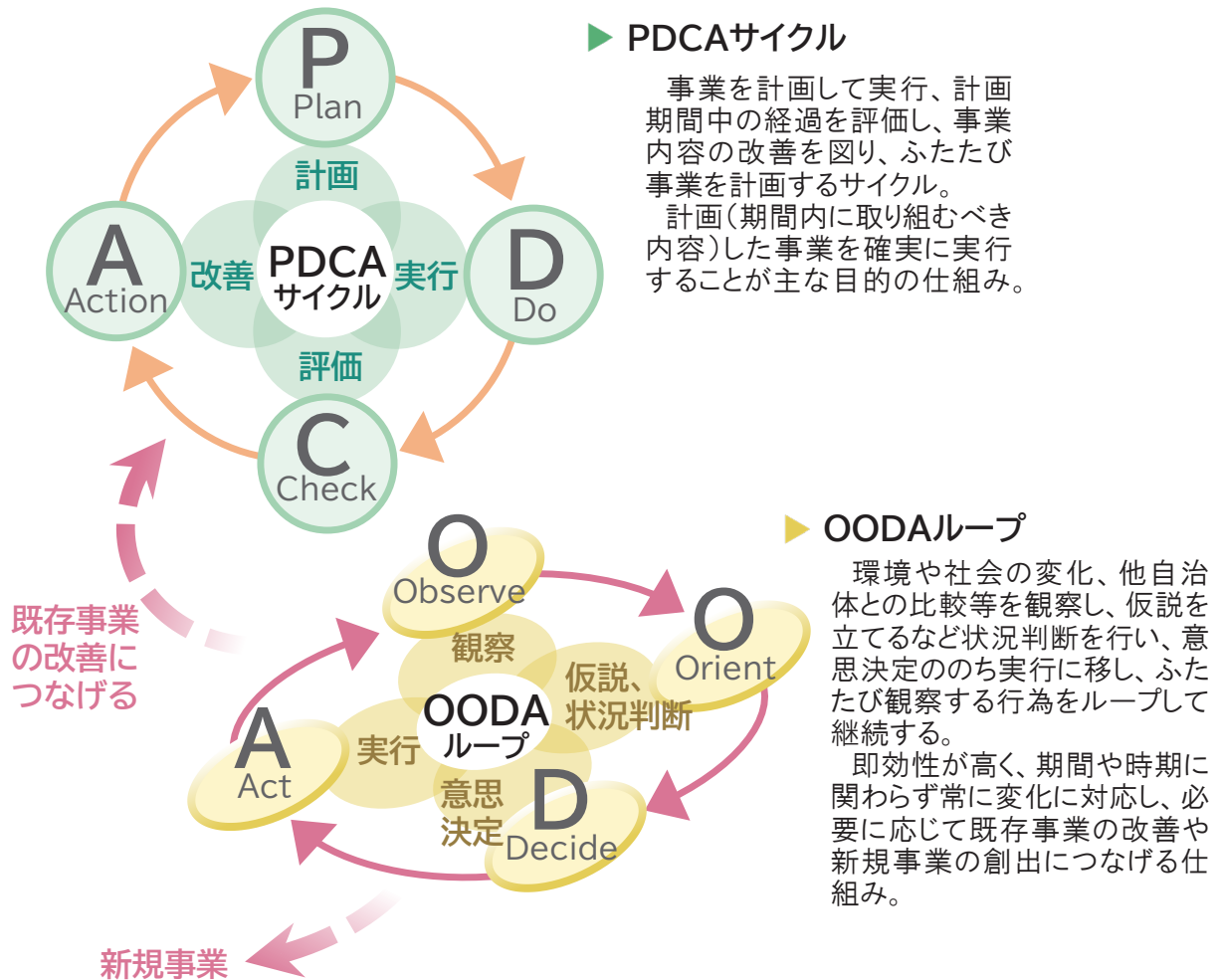
### ▼町田市教育プラン24-28を推進する上での点検及び評価の流れ



## ■計画の推進手法

本計画では、一定の期間の中で、既存事業の円滑な推進と改善を目的とした仕組みである「PDCA サイクル」を活用するとともに、常に発生する様々な事象や要因に対応するため、既存事業の改善や新規事業の創出を目的とした仕組みである「OODA ループ」を活用して推進していきます。

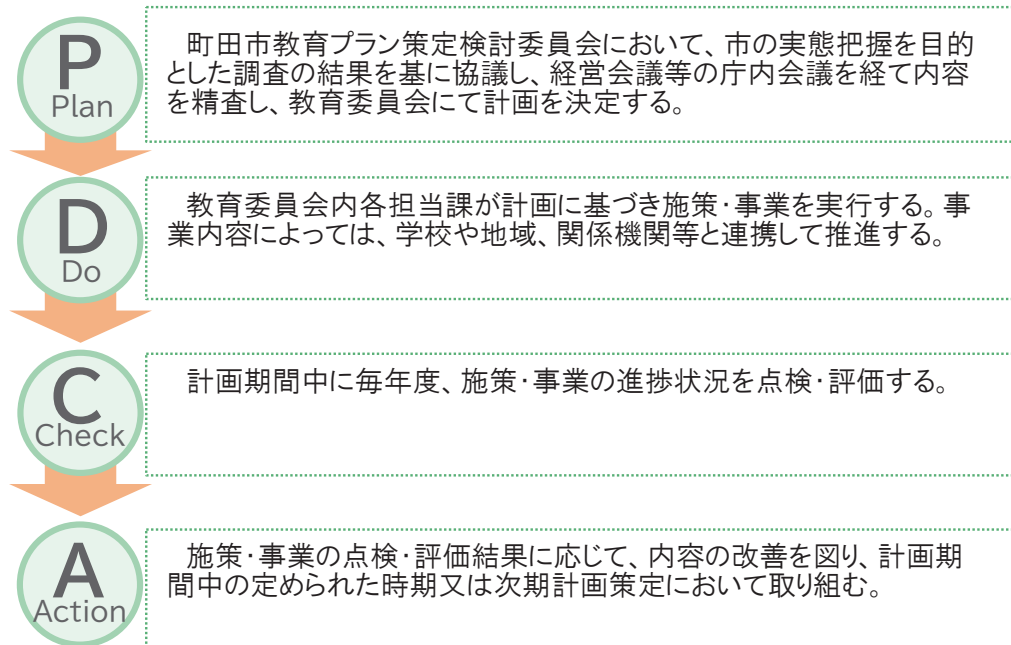
### ▼推進手法(PDCA サイクルとOODA ループ)



## ■PDCA サイクルによる推進

本計画により推進する施策について、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第 26 条に基づく、教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価を行い、その結果を次年度の取組に生かしていきます。

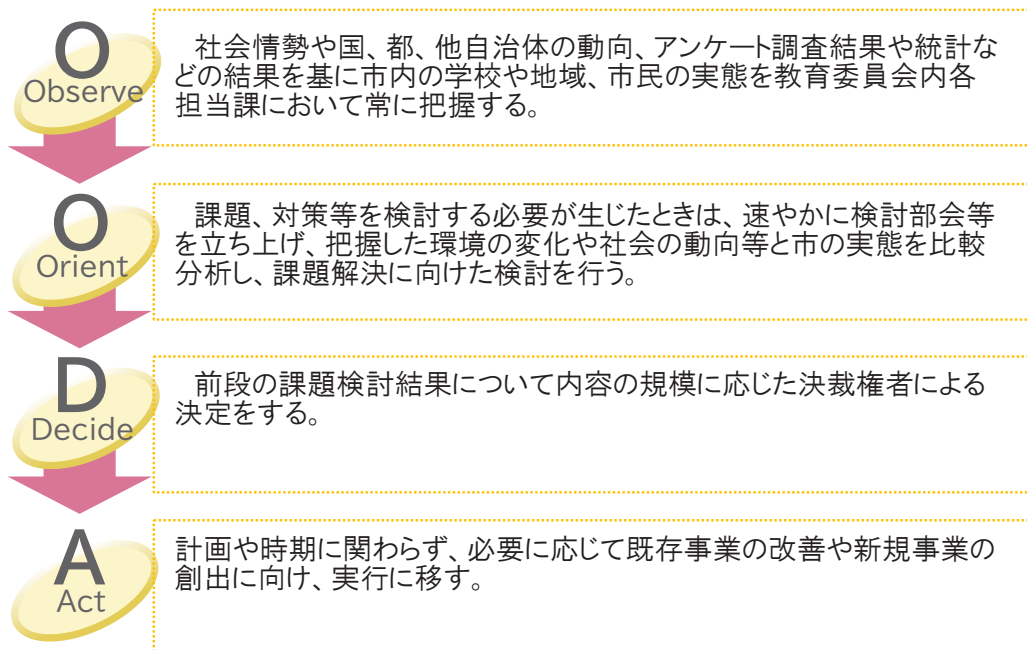
### ▶ PDCA サイクル



## ■OODA ループによる推進

上記の体制に加え、環境や社会の変化、他自治体との比較等を観察し、状況判断を行い、計画や時期に関わらず常に変化に対応できるよう、それぞれの課題に応じて立ち上げた検討チームや教育長主宰の会議体「企画調整会議」にて検討していきます。

### ▶ OODA ループ





# 第2章 町田市の教育を取り巻く現状と課題

## 1 第3期計画の振り返りからみた現状

### 基本方針Ⅰ 学ぶ意欲を育て「生きる力」を伸ばす

#### <事業実施の状況>

『全国学力・学習状況調査』及び『児童生徒の学力を図るための調査』の結果と分析を踏まえ、思考力、判断力、表現力を育成する授業実践を重視した、主体的・対話的で深い学びの実現を目指す授業改善に取り組んできました。これまで先進的に取り組んできた ICT 教育については、GIGA スクール構想の後押しを受け、市内小・中学校の全ての児童生徒、教員に一人1台タブレット端末を整備し、コロナ禍においても学びを継続して行うことができました。英語教育については、小学校放課後英語教室の全校実施や、ALT（外国語指導助手）を増員するなど、英語によるコミュニケーションの機会を通してコミュニケーション能力を育てています。

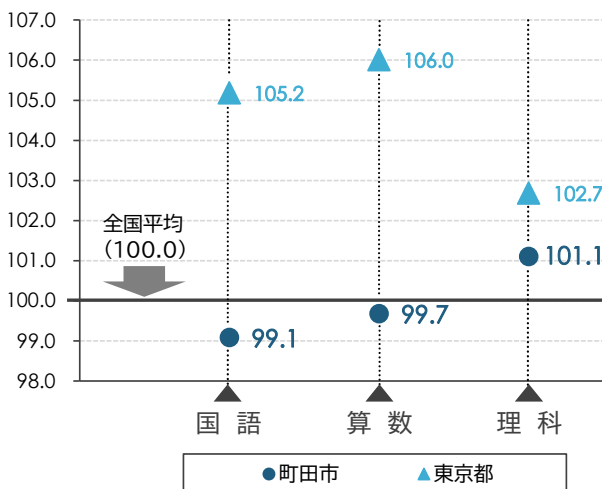
また、生涯を通じて健やかに過ごせる体を育成するために、体を動かす機会の充実や朝食レシピコンテストを実施するなど食や生活習慣への正しい知識や理解を深める取組を実施しました。

#### <現状を表すデータ>

#### ▶関連データ① 学力の状況・学習の動機

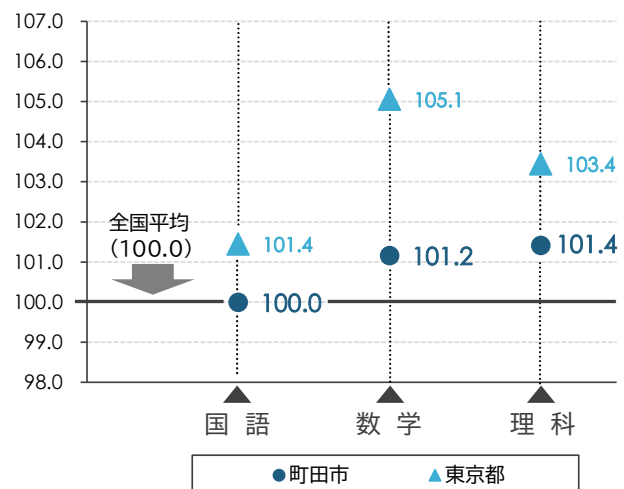
#### ■町田市の小学生の全国学力・学習状況調査 (2022年度)

全国平均を100とした場合の町田市・東京都の科目別正答率の比較 (小学校)



#### ■町田市の中学生の全国学力・学習状況調査 (2022年度)

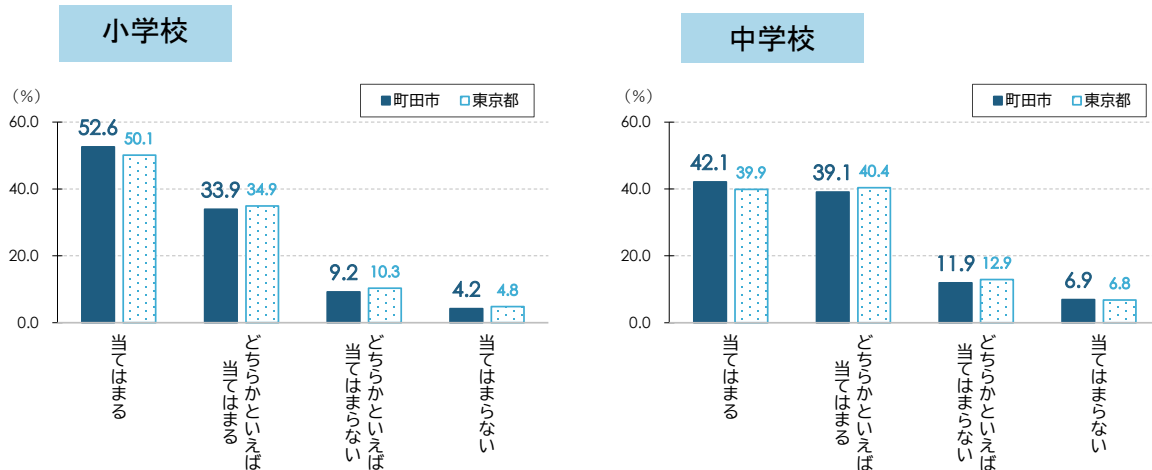
全国平均を100とした場合の町田市・東京都の科目別正答率の比較 (中学校)



出典：全国学力・学習状況調査（2022年度）

※全国学力・学習状況調査は、全国の小学6年生、中学3年生を対象とし、国語、算数（数学）の2教科について毎年実施。理科、英語については、3年に1度の実施となり、2022年度は理科の実施年度

■東京都「令和4年度 児童・生徒の学力向上を図るための調査」の結果（2022年度）  
 （「学習の動機」の「分かることやできることが楽しいから」の項目に肯定的な回答をした割合）



▼現状

出典：児童・生徒の学力向上を図るための調査（2022年度）

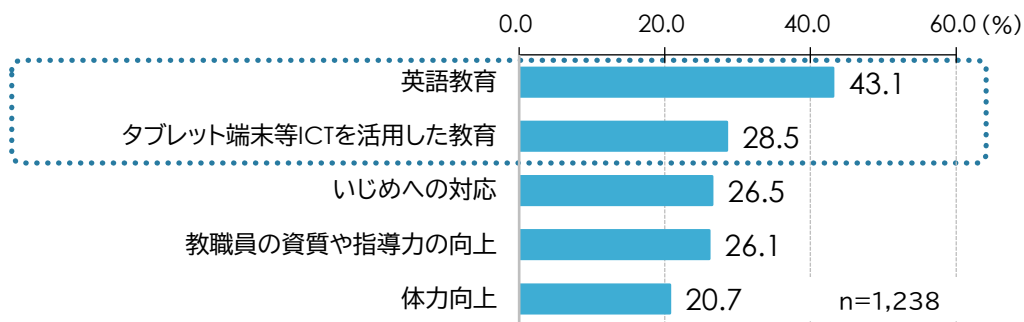
町田市の小・中学生の全国学力・学習状況調査の結果をみると、全国平均を100としたときに、東京都より低い状況です。

東京都「令和4年度 児童・生徒の学力向上を図るための調査」の「学習の動機」では、「しっかり考えられるようになりたいから」「将来の仕事や生活に役立つから」などの6つの項目がありますが、町田市の傾向として、「分かることやできることが楽しいから」の項目への肯定的回答（「当てはまる」及び「どちらかといえば当てはまる」の合計割合）が東京都と比較して小学校では1.5ポイント、中学校では0.9ポイント高い状況です。

▶関連データ② 学校教育へのニーズ

■町田市の学校教育で今後、力を入れていくことが望ましいもの

（全20項目のうち上位5項目のみ抜粋）



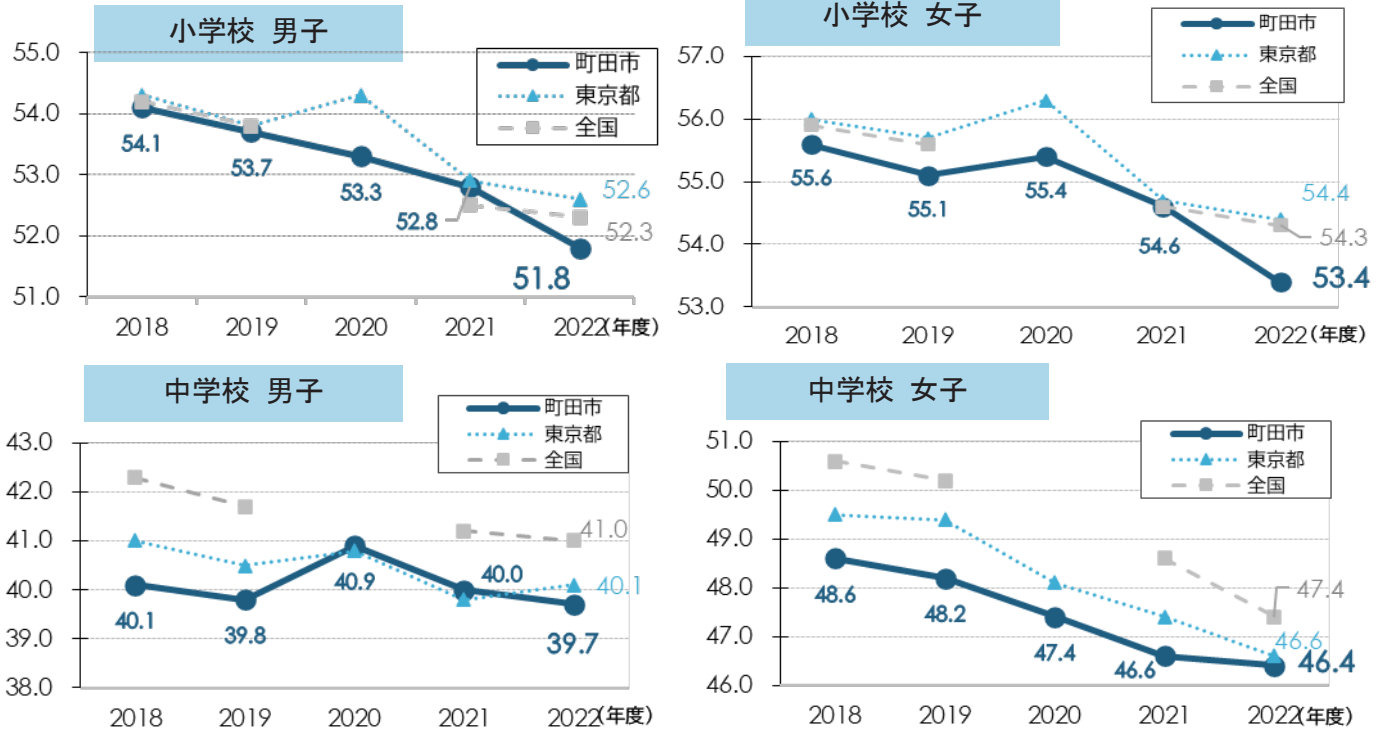
出典：町田の教育に関するアンケート調査【保護者アンケート】（2022年度）

▼現状

保護者を対象に実施した町田の教育に関するアンケート調査結果をみると、英語教育が43.1%と最も多く、次いで「タブレット端末等ICTを活用した教育」が28.5%という結果となっており、保護者からのニーズが高い状況です。

▶関連データ③ 体力の状況

■町田市、東京都、全国の男女別小・中学生の体力・運動能力等調査の体力合計点の推移（小学5年生・中学2年生）



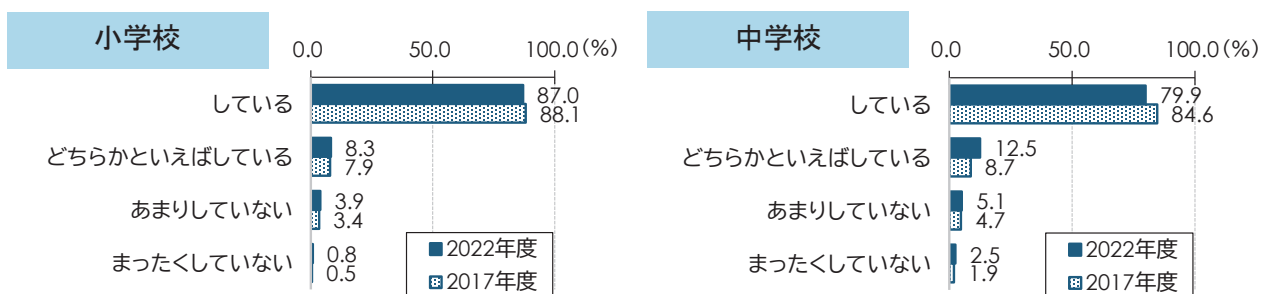
出典：「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」、「東京都児童・生徒体力・運動能力、生活・運動習慣等調査」  
 ※2020年度は全国調査が実施されなかったため、非表示

▼現状

町田市の児童生徒の体力の状況については、2018年度の調査と比較し、小学校は、男子が2.3ポイント、女子は2.2ポイント減少し、中学校は、男子が0.4ポイント、女子は2.2ポイントの減少となっています。全国や東京都の傾向と同じく小中男女ともに低下傾向にあります。

▶関連データ④ 児童生徒の朝食摂取状況

■朝食を毎日食べていますか（小学6年生・中学3年生）



出典：全国学力・学習状況調査（2022年度）

▼現状

児童生徒の朝食摂取率については、朝食を毎日食べていない児童が1割以上、朝食を毎日食べていない生徒が2割以上いる状況です。2017年度の調査と比較し、毎日朝食を食べている児童は1.1ポイント、生徒は4.7ポイント減少しています。



### 現状から見えてくる課題

- 町田市の小・中学生の全国学力・学習状況調査の結果をみると、東京都の平均より若干低い状況となっています。また、学習の動機として「分かることやできることが楽しいから」と回答した児童・生徒の割合が多い状況です。
  - 児童生徒が、より楽しさや自己有用感を感じられるような学びを提供し、学習意欲の向上を図ることが求められています。
- 英語教育や ICT 教育について、保護者からのニーズが高い状況です。
  - 引き続き、「えいごのまちだ」など「町田ならではの学び」を推進していくことが求められています。
- 町田市の児童生徒の体力の状況については、小学生、中学生ともに低下傾向にあります。また、児童生徒の朝食摂取率については、5年前より減少しています。
  - 体力づくりや食の重要性を学ぶ機会の強化が求められています。

## 基本方針Ⅱ 充実した教育環境を整備する

### <事業実施の状況>

少子化に伴い、児童生徒数は減少に転じていますが、一方で特別支援学級児童生徒数は増加している状況です。特別支援教育を想定していない時点で建設された多くの学校では、特別支援学級について余裕教室等を転用することが多く、広さや配置に十分な配慮ができていない状況です。これらの課題や施設の老朽化等に対し、学校統合を契機により良い教育環境をつくることを検討し 2021 年 5 月に「町田市新たな学校づくり推進計画」を策定しました。この推進計画に基づき、学校統合に向けた準備・検討を進めています。

また、協働的な学習を進める上で効果的な大型提示装置などの ICT 環境の整備や児童生徒の熱中症対策に資する 体育館空調の設置などより良い教育環境を整備しました。

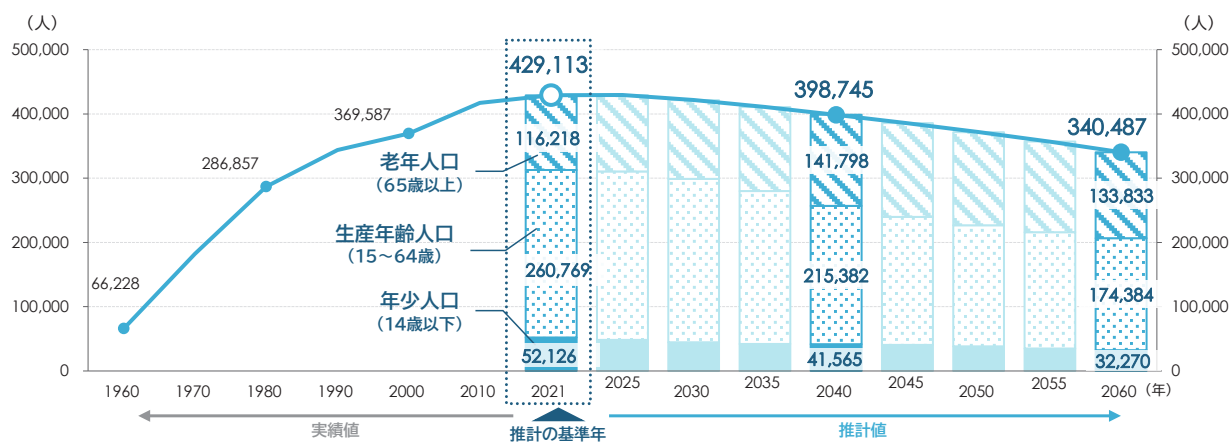
特別支援教育については、特別支援教育支援員の配置や特別支援学級の整備を計画的に行い、一人ひとりのニーズに対応できるよう進めました。増え続けている 不登校児童生徒に対する支援については、不登校初期支援チームの創設や、教育支援センターを拡充し一人でも多くの児童生徒とつながりをもてるよう取り組みました。

さらに、長時間勤務する教員の負担軽減を図り、教育の質を向上させていくことを目的として、副校長補佐やスクール・サポート・スタッフなど学校を支える人員体制を計画的に拡充するなど 教員の働き方改革を進めています。

<現状を表すデータ>

▶関連データ① 今後の人口の動向

■町田市の人口推移と推計



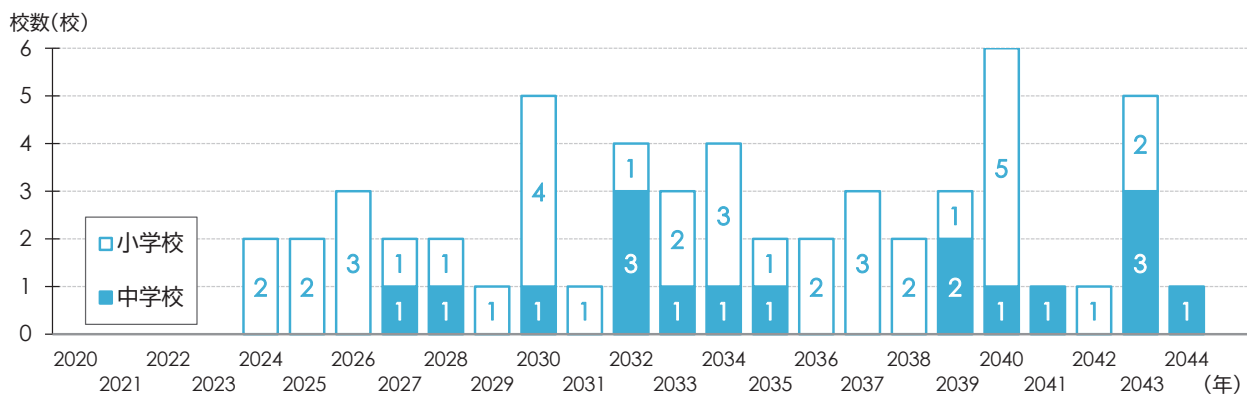
出典：2021年以前は市の住民基本台帳（各年1月1日現在）、  
2025年以降は「町田市将来人口推計報告書」（2021年10月）  
※推計値は、2021年を基準年として、コーホート要因法を用いた推計方法から算出

▼現状

町田市人口推移と推計では、2021～2025年の間に人口のピークを迎え、その後減少傾向に転じることが予測されています。少子化、超高齢化社会は今後も進行する予測です。

▶関連データ② 町田市立学校施設の老朽化の状況

■町田市立学校施設の耐用年数（60年）の到来時期  
（55校の内訳）



出典：町田市教育委員会調べ（2021年5月時点）

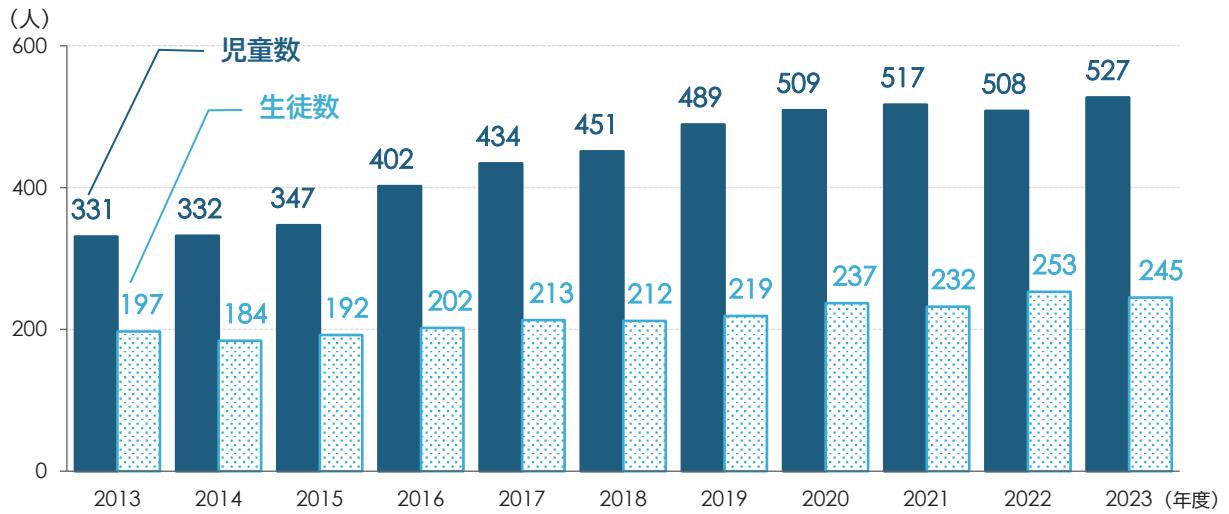
▼現状

現在、新たな学校づくり推進事業を進めていますが、学校統合を行わなかった場合には、2044年度までに、築60年が到来する学校は55校あります。



▶関連データ③ 特別支援学級の状況

■町田市の特別支援学級に通う児童生徒数の推移



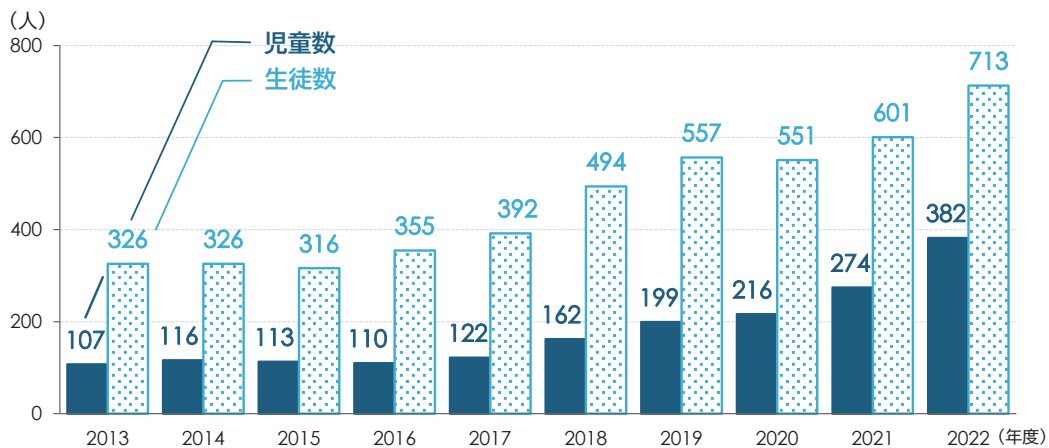
出典：町田市教育委員会調べ（各年 5 月 1 日現在）

▼現状

町田市の特別支援学級に通う児童生徒数は増加傾向にあり、児童数は2013年の331人から2023年には約1.6倍の527人となり、生徒数は2013年の197人から2023年には約1.2倍の245人となっています。

▶関連データ④ 不登校児童生徒の状況

■町田市の不登校児童生徒数の推移



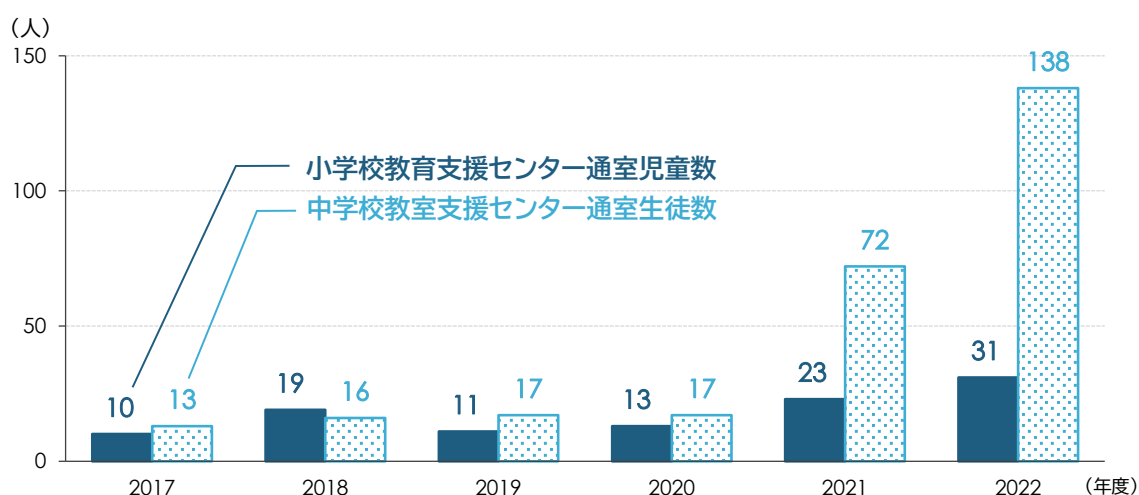
出典：町田市教育委員会調べ（2022年度）

▼現状

町田市の不登校児童数は、2017年度以降に増加傾向となり、2022年度は382人となっています。不登校生徒数は、2016年度以降に以前と比べて大きく増加するようになり、2022年度は713人となっています。

「令和3年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」によると、不登校児童生徒数は、全国的にも増加傾向にあり、児童生徒の休養の必要性を明示した「義務教育の段階における普通教育に相当する教育の機会の確保等に関する法律」が2017年度に施行され、その趣旨が浸透したこと等の影響が考えられます。

## ■教育支援センター通室児童生徒数の推移



出典：町田市教育委員会調べ（2022年度）

### ▼現状

町田市内の小・中学生で、現在、登校が難しい状況にある児童生徒の学びの場である「教育支援センター」に通室している児童生徒数は、増加しています。2022年度は、2021年度と比較して66人通室生徒数が増えています。

2021、2022年度の通室生徒数が伸びた要因としては、2021年度から中学生を対象とした民間事業者による小集団指導を開始し、2022年度からその規模を拡大したことが要因と考えられます。

## ▶関連データ⑤ 教員の勤務状況

### ■時間外在校等時間数が月80時間以上の教員の年度平均割合の比較

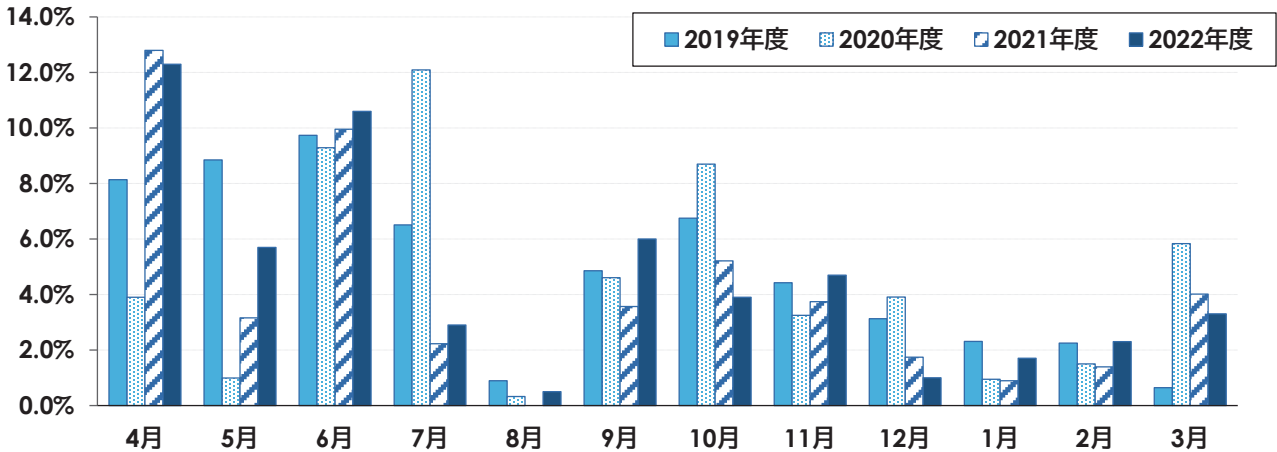
項目	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
月80時間以上を超える教員の割合	4.9%	4.7%	4.1%	4.6%

出典：町田市教育委員会調べ（2022年度）

### ▼現状

町田市立小・中学校に勤務する教員のうち、月80時間以上の時間外在校等時間数であった教員の2022年度の平均割合は、2019年度より小・中学校全体で0.3ポイント減少し4.6%でした。

■時間外在校等時間数が月 80 時間以上の教員の月別割合の比較



出典：町田市教育委員会調べ（2022 年度）

▼現状

2020 年度以降は、新型コロナウイルス感染症拡大防止に配慮した教育活動によって新型コロナウイルス感染症拡大前と比較すると業務は増えているにもかかわらず、時間外在校等時間数が月 80 時間以上の教員の割合は、2019 年度から継続して減少傾向となっています。新型コロナウイルス感染症拡大に伴う臨時休業の影響により、2019 年度 3 月、2020 年度 4 月は、例年より低い割合でした。また 2020 年度 7 月は、臨時休業の影響を受け、夏季休業が少なかったため、例年より高い割合となりました。

■教員の働き方改善に向けた取組の検討

働き方改革プランに掲げる取組によって、負担が軽減したと思う教員の割合				
項目	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
負担が軽減したと思う教員の割合	60.0%	65.7%	64.2%	66.4%

出典：町田市立小・中学校における働き方改革の取り組みに関するアンケート【教員アンケート】（2022 年度）



現状から見えてくる課題

- 2025 年以降人口減少が予測され、学校施設の老朽化も進んでいます。
  - 新たな学校づくりを契機とした学校施設の機能性能の確保やライフサイクルコストの縮減が求められています。
- 特別支援学級に通う児童生徒数が増加しています。
  - 特別な支援を必要とする児童生徒一人ひとりのニーズに対応した支援体制の充実が求められています。
- 不登校児童生徒数が増加しています。
  - 不登校児童生徒一人ひとりのニーズに対応した支援体制の充実が求められています。
- 2019 年度以降、教員への働き方改革の取組を実施したことにより、負担が軽減したと回答した教員の割合が 6 割台で推移しています。
  - 教員への働き方改革の取組の更なる推進が求められています。

## 基本方針Ⅲ 家庭・地域の教育力を高める

### <事業実施の状況>

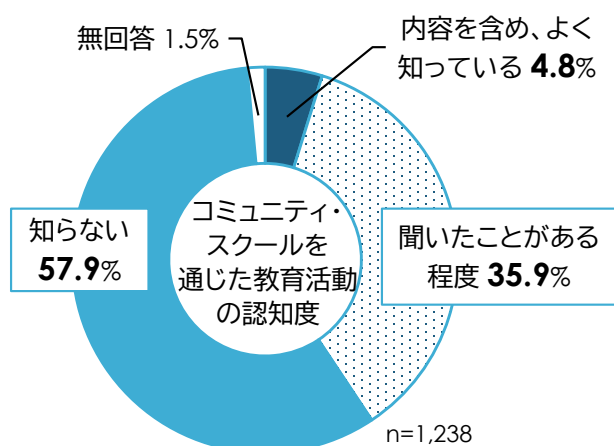
児童生徒の社会性の育成やキャリア教育など多様な学びの充実や教員の負担軽減を図るため地域と学校が目標やビジョンを共有し、パートナーとして連携し学校教育を協働して進めていけるよう、コミュニティ・スクールの全校実施を掲げ、2021年度に全校実施が完了しました。

家庭教育を支える環境整備については、新型コロナウイルス感染症の影響により、参加人数の制限など必要な対策をしつつも、保護者向けの学習機会の充実を掲げ、まなびのひろば事業などを実施しました。

### <現状を表すデータ>

#### ▶関連データ① コミュニティ・スクールの状況

##### ■コミュニティ・スクールを通じた教育活動の認知度



出典：町田の教育に関するアンケート調査  
【保護者アンケート】(2022年度)

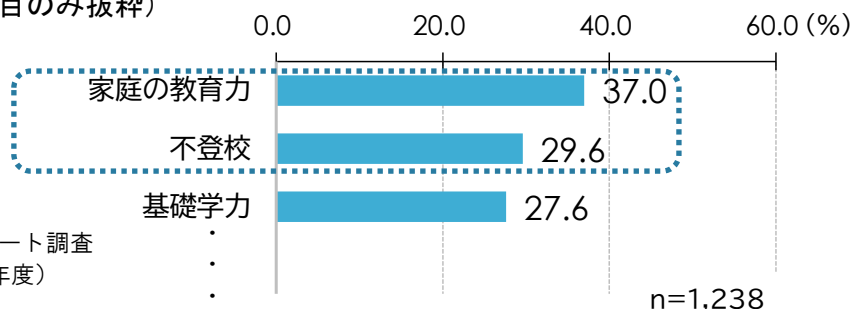
##### ▼現状

コミュニティ・スクールを通じた教育活動について「知らない」と回答した割合が57.9%と、認知度が低い状況です。

#### ▶関連データ② 教育や環境で課題と感じていること

##### ■児童生徒の教育や環境で課題と感じていること

(全12項目のうち上位3項目のみ抜粋)



出典：町田の教育に関するアンケート調査  
【保護者アンケート】(2022年度)

##### ▼現状

保護者アンケートでは、「家庭の教育力」について課題と感じている割合は37.0%と最も高く、次いで「不登校」について課題と感じている割合は29.6%となっています。



### 現状から見えてくる課題

- 学校と地域・家庭が連携・協働を進めていけるようコミュニティ・スクールの全校実施を完了しましたが、コミュニティ・スクールを通じた教育活動については、まだ認知度が低い状況です。また、保護者アンケートでは、「家庭の教育力」について課題と感じている割合は37.0%と最も高い状況でした。  
→ 地域が一体となって子どもたちの学びや育ちを支える環境づくりが求められています。

## 基本方針Ⅳ 生涯にわたる学習を支援する

### <事業実施の状況>

学びのきっかけとなる機会を提供するため、デジタルも含めた学習情報の発信の強化や、歴史・文化資源等を活用した出張事業を実施しました。

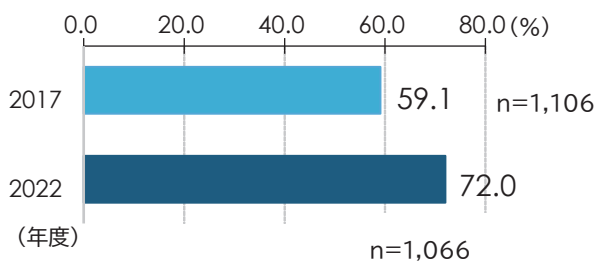
また、町田市の歴史情報をインターネット上でいつでもどこでも閲覧できる「町田デジタルミュージアム」の公開や、文学の扉事業を通じて、自分にあった学習活動を深めることができるよう支援をしています。

学習成果を生かす機会を充実する施策としては、地域で活動するボランティアの養成・支援のために、おはなし会のボランティア向け講座を実施したほか、学習を支える環境づくりを進めるため、支援が必要な人への学習機会の提供などを行いました。

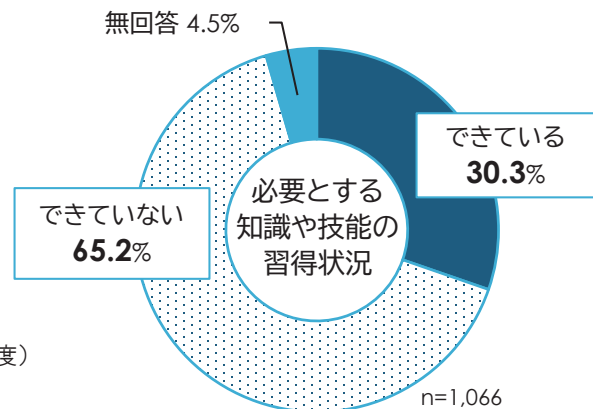
### <現状を表すデータ>

#### ▶ 関連データ① 学びの機会の提供

ア この1年間に知識や技能を習得する機会があった市民の割合



イ 必要とする知識や技能の習得状況



出典：生涯学習及び図書館に関する市民意識調査（2022年度）

出典：生涯学習及び図書館に関する市民意識調査（2022年度）

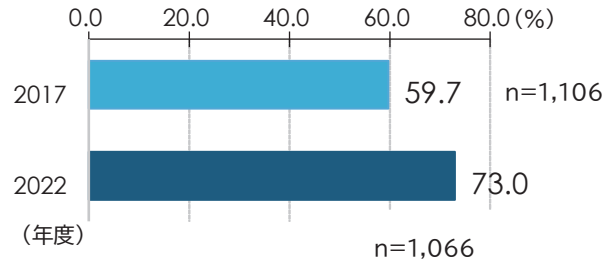
### ▼現状

2022年度に実施した生涯学習及び図書館に関する市民意識調査結果では、5年前の2017年度調査結果と比較して、「ア この1年間に知識や技能を習得する機会があった」との回答割合が12.9ポイント増加しました。

また、「イ 必要とする知識と技能を十分に習得することができるか」について、「できていない」（65.2%）は6割強となっており、「できている」（30.3%）の2倍近くとなっています。

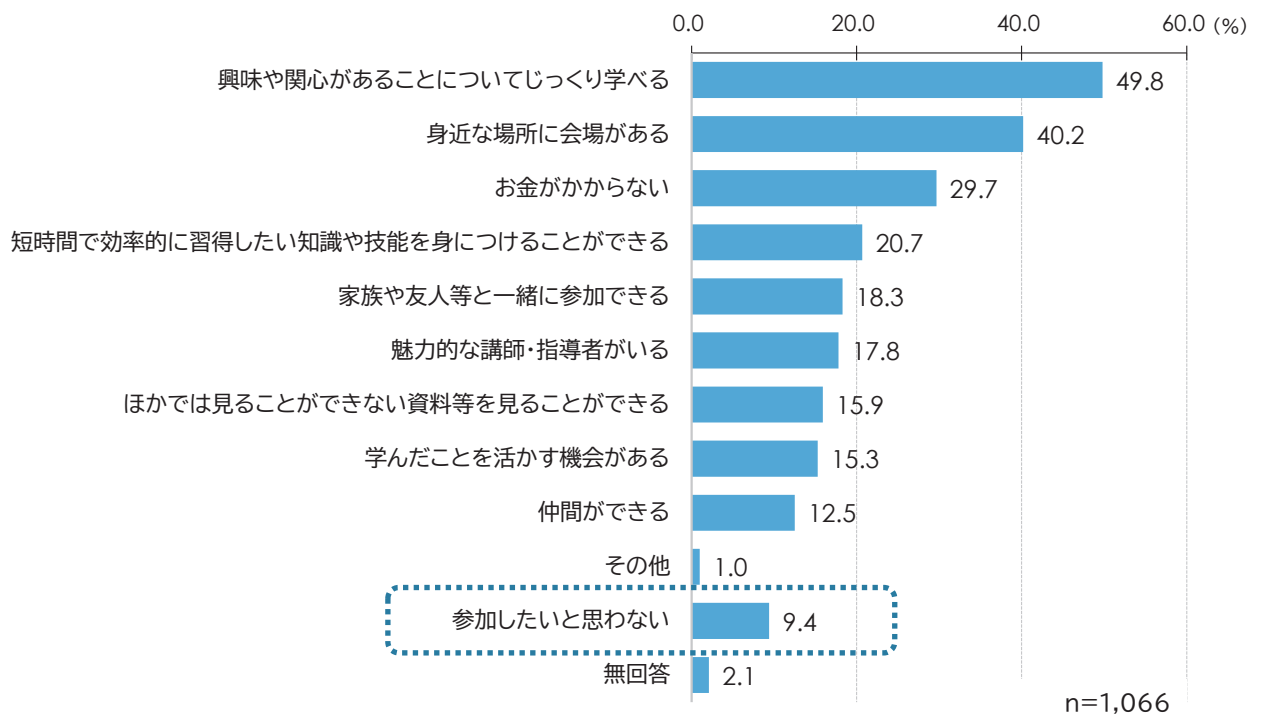
## ▶関連データ② 地域活動への参加状況

ア この1年間に町内会・自治会等の地域活動に参加しなかったと回答した市民の割合



出典：生涯学習及び図書館に関する市民意識調査（2022年度）

イ 学習講座やイベント等の活動に参加する際、重視すること



出典：生涯学習及び図書館に関する市民意識調査（2022年度）

### ▼現状

2022年度に実施した生涯学習及び図書館に関する市民意識調査結果では、5年前の2017年度調査結果と比較して、「ア この1年間に町内会・自治会等の地域活動に参加しなかった」と回答する割合が13.3ポイント増加しました。一方で、「イ 学習講座やイベント等の活動に参加する際、重視すること」について、「参加したいと思わない」は9.4%と低くなっています。



### 現状から見えてくる課題

- 必要とする知識と技能を十分に習得することが「できていない」と回答した市民が6割強という状況です。  
→市民への教育・学習の機会の創出が求められています。
- 社会変化に対応した生涯学習情報のデジタル化への取組を実施しました。  
→リアルでもオンラインでも学ぶことのできる環境づくりが求められています。

## 2 教育環境を取り巻く状況

### <社会環境の変化>

本計画策定にあたり、踏まえるべき社会環境の変化を以下のとおり整理しました。

#### (1) デジタルトランスフォーメーション（DX）の加速化等に伴う学びの必要性の高まり

デジタルトランスフォーメーションなど社会変化に応じた ICT 環境の整備・活用が加速化しています。

そのような状況において、仕事や社会生活を送る上で、必要な知識や技術を身に付けていく学び直しの必要性が増してきています。

また、子どもの学びにおいては、ICT を活用することで、一人ひとりの子どもが自分のペースで学ぶことが可能となりました。その一方で、従来の人と人との直接的なコミュニケーションの重要性についても再認識されています。

#### (2) 子どもの権利や多様性を尊重する社会認識の醸成

国はこども施策を総合的に推進するため、こども基本法を施行しました。町田市においても、「町田市子どもにやさしいまち条例（まちだコドマチ 条例）」が 2023 年 12 月に制定され、町田市全体で「子どもにやさしいまち」の実現を目指しています。「まちだコドマチ 条例」では、子どもの個性の尊重や多様な生き方をみんなが支えることなどを求めており、全ての子どもが、心身の状況や置かれている環境などに関わらず、その権利が保障され、将来にわたって幸福な生活を送ることができる社会の実現を目指していくことの重要性が再認識されています。

また、性の多様性への理解や海外にルーツのある子への配慮が浸透してきています。

#### (3) 持続可能な社会を目指す SDG s の理念の浸透

2015 年に国連総会で、持続可能な社会に向けた 17 のゴールである SDG s が採択され、様々な場面で、持続可能な社会を目指す SDG s の視点を意識した取組が進められています。子どもたちは、総合的な学習時間や環境教育を通じて SDG s の考えに触れています。

目標 4 では、誰一人取り残さない質の高い教育の実現が目標として掲げられています。これは、子どもたち一人ひとりのニーズに対応した学びを提供するとともに、大人も含め全ての人に学習の機会を提供するという考えです。

#### (4) 学校が抱える課題の複雑化・多様化

子どもたちを取り巻く環境や学校が抱える課題がより複雑化・多様化してきています。専門性を有する人材や教員の事務的業務の負担軽減につながる人材を配置することが求められています。

また、学校と地域・保護者が目標やビジョンを共有し、協働していくコミュニティ・スクールをさらに推進していくことで、子どもたちの豊かな学びを継続して支えていきます。

## <国の動向>

国においては、教育の振興に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るため、2017年に改訂した学習指導要領や第3期教育振興基本計画の成果や課題、様々な分野からの提言・審議を踏まえ、2023年6月に第4期教育振興基本計画（2023年度～2027年度）を策定しました。

学校教育分野に関しては、学習指導要領の改訂から第4期教育振興基本計画の策定までの間にGIGAスクール構想や「令和の日本型学校教育」の構築など、学習指導要領で示した理念を実現するために、教育に関する施策が多く展開されています。

### ■ 学習指導要領（2017年改訂）

2017年

#### 学習指導要領の改訂

特徴：

- 学校と社会が、より良い学校教育を通じてより良い社会を創るという目標を共有し、社会と連携・協働しながら、子どもたちが未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む「社会に開かれた教育課程」を重視
- 知・徳・体にわたる「生きる力」を子どもたちに育むため、「何のために学ぶのか」という学習の意義を共有しながら、授業の創意工夫や教科書等の教材の改善を引き出していけるよう、全ての教科等を、①知識及び技能、②思考力、判断力、表現力等、③学びに向かう力、人間性等の三つの柱で再整理
- 教育の質を向上させ、学習の効果を最大化するために、①教科等横断的な視点で教育内容を捉える、②PDCAサイクルの確立、③人的・物的資源をどう活用するか、といった視点をもった「カリキュラム・マネジメント」の確立
- 「何を学ぶか」だけでなく、「どのように学ぶか」を重視した、「主体的・対話的で深い学び」の視点での授業改善

### ■ 近年の教育を取り巻く動向

2017年

#### 教育機会確保法施行

学校復帰を前提としていた従来の不登校対策から転換し、学校外での「多様で適切な学習活動」の重要性を明示

2018年

#### 学校における働き方改革の推進

勤務時間管理の徹底、在校等時間の上限設定、教職員の労働安全衛生管理を明示



■ 教育振興基本計画(第3期・第4期)

第3期教育振興基本計画 (2018～2022年度)

基本の方針	教育を通じて生涯にわたる一人一人の「可能性」と「チャンス」の最大化
教育の目指すべき方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>①夢と志を持ち、可能性に挑戦するために必要となる力を育成する</li> <li>②社会の持続的な発展を牽引するための多様な力を育成する</li> <li>③生涯学び、活躍できる環境を整える</li> <li>④誰もが社会の担い手となるための学びのセーフティネットを構築する</li> <li>⑤教育政策推進のための基盤を整備する</li> </ul>

第4期教育振興基本計画 (2023～2027年度)

基本の方針	2040年以降の社会を見据えた持続可能な社会の創り手の育成 日本社会に根差したウェルビーイングの向上
教育の目指すべき方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>①グローバル化する社会の持続的な発展に向けて学び続ける人材の育成</li> <li>②誰一人取り残されず、全ての人の可能性を引き出す共生社会の実現に向けた教育の推進</li> <li>③地域や家庭で共に学び支え合う社会の実現に向けた教育の推進</li> <li>④教育デジタルトランスフォーメーション(DX)の推進</li> <li>⑤計画の実効性確保のための基盤整備・対話</li> </ul>

『令和の日本型学校教育』の構築

すべての子どもたちの可能性を引き出すため、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進  
ICTの活用により、Society5.0時代にふさわしい学校の実現

2021年

2023年

GIGAスクール構想

多様な子供たちを誰一人取り残すことなく、公正に個別最適化され、資質・能力が一層確実に育成できる教育環境が実現  
これまでの教育実践と最先端のICTのベストミックスを図ることにより、教師・児童生徒の力を最大限に引き出す

### 3 町田市の現状からみた課題の整理

#### 第3期計画の振り返り

**基本方針Ⅰ 学ぶ意欲を育て「生きる力」を伸ばす**

**振り返り 1** 「分かることやできることが楽しいから」と回答した児童生徒の割合が多い。  
P13 関連データ参照

**振り返り 2** 「町田ならではの学び」として進めてきたICT教育、英語教育への保護者のニーズが高い。  
P13 関連データ参照

**振り返り 3** 児童生徒の体力や朝食摂取率が減少している。  
P14 関連データ参照

**基本方針Ⅱ 充実した教育環境を整備する**

**振り返り 4** 2025年以降人口減少が予測され、学校施設の老朽化が進んでいる。  
P16 関連データ参照

**振り返り 5** 特別支援学級に通う児童生徒が増加している。  
P17 関連データ参照

**振り返り 6** 不登校児童生徒数が増加している。  
P17 関連データ参照

**振り返り 7** 教員の働き方改革の取組を実施したことにより、負担が軽減したと回答した教員が6割である。  
P19 関連データ参照

**基本方針Ⅲ 家庭・地域の教育力を高める**

**振り返り 8** 学校と地域・家庭が連携・協働を進めていけるようコミュニティ・スクールの全校実施を完了したが、コミュニティ・スクールを通じた教育活動については、まだ認知度が低い状況である。  
P20 関連データ参照

**基本方針Ⅳ 生涯にわたる学習を支援する**

**振り返り 9** 社会変化に対応した生涯学習情報のデジタル化への取組を実施している。

**振り返り 10** 必要とする知識と技能を十分に習得することが「できていない」と回答した市民が6割強である。  
P21 関連データ参照

#### 社会環境の変化

**社会環境の変化Ⅰ**  
**デジタルトランスフォーメーション(DX)の加速化等に伴う学びの必要性の高まり**

**社会変化 1** デジタルトランスフォーメーションなど社会変化に応じたICT環境の整備・活用が加速化している。  
また、そのような状況において、仕事や社会生活を送るうえで、必要な知識や技術を身に付けていく学び直しの必要性が増してきている。

**社会環境の変化Ⅱ**  
**子どもの権利や多様性を尊重する社会認識の醸成**

**社会変化 2** 国はこども政策を総合的に推進するため、こども基本法を施行した。  
町田市においても、(仮称)子どもにやさしいまち条例の策定が進められている。また、性の多様性への理解や海外にルーツのある子への配慮が浸透してきている。

**社会環境の変化Ⅲ**  
**持続可能な社会を目指すSDGsの理念の浸透**

**社会変化 3** 持続可能な社会に向けた17のゴールであるSDGsが採択され、目標4では、誰一人取り残さない質の高い教育の実現が目標として掲げられている。

**社会環境の変化Ⅳ**  
**学校が抱える課題の複雑化・多様化**

**社会変化 4** 子どもたちを取り巻く環境や学校が抱える課題がより複雑化・多様化してきている。

## 町田市教育プラン24-28で取り組むべき課題

- 社会変化 1 → 課題 1 社会変化に合わせた学びの推進が求められている。
- 振り返り 1 → 課題 2 児童生徒の自己有用感や学習意欲の更なる向上が求められている。
- 振り返り 2 → 課題 3 えいごのまちだなど町田ならではの学びを推進していくことが求められている。
- 振り返り 3 → 課題 4 体力づくりや食の重要性を学ぶ機会の強化が求められている。
- 社会変化 2 → 課題 5 児童生徒の意見を反映できる取組が求められている。
- 振り返り 10 → 課題 6 市民への教育・学習の機会の創出が求められている。
- 振り返り 5 6 → 課題 7 不登校児童生徒や特別な支援を必要とする児童生徒一人ひとりのニーズに対応した支援体制の充実が求められている。
- 社会変化 3 → 課題 8 全ての学びを必要とする市民への適切な学びの機会の保障が求められている。
- 振り返り 4 → 課題 9 新たな学校づくりを契機とした学校施設の機能性能の確保やライフサイクルコストの縮減が求められている。
- 振り返り 9 → 課題 10 リアルでもオンラインでも学ぶことのできる環境づくりが求められている。
- 社会変化 1 → 課題 10
- 振り返り 7 → 課題 11 教員の働き方改革の取組の更なる推進が求められている。
- 振り返り 8 → 課題 12 地域が一体となって子どもたちの学びや育ちを支える環境づくりが求められている。
- 社会変化 4 → 課題 12

未来を見据えた学びを推進する必要がある

### 基本方針Ⅰ

一人ひとりの学びを保障する必要がある

### 基本方針Ⅱ

学びの環境を整備する必要がある

### 基本方針Ⅲ

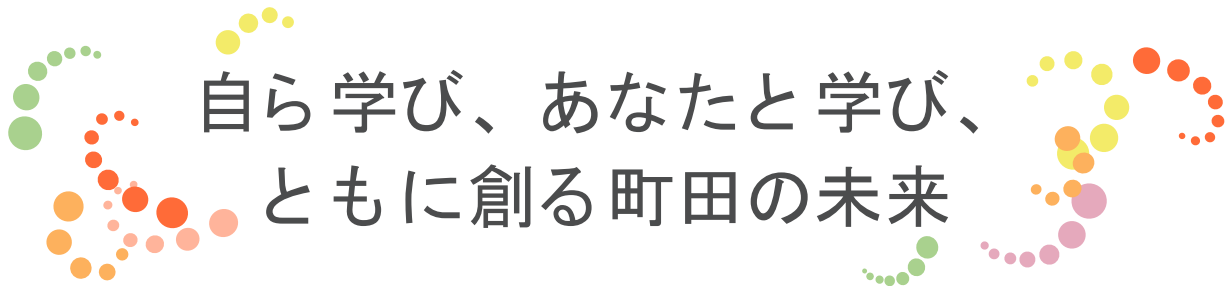
学びを支える体制づくりが必要である

### 基本方針Ⅳ

# 第3章 基本的な方向性

## 1 教育目標

町田市教育委員会が、町田市の教育施策を通じて、町田市の児童生徒、保護者、教員、市民とともに、2040年の社会を見据え、実現したい社会の姿を表すものとして、本計画の教育目標を下記のとおり設定します。



「町田市教育委員会は、全ての市民一人ひとりが、学びを通して自らの生きがいを見つけ、他者への理解を深め、学び合うことで、自らが望む未来を創造することができる地域社会の構築を目指します。」

### 2040年を見据えた目指す姿・あるべき姿

#### 国の方針

##### 第4期教育振興基本計画における国の方針

- 「望む未来を私たち自身で示し、作り上げていくことが求められる時代」の到来
  - 一人一人の多様な幸せであるとともに社会全体の幸せでもあるウェルビーイングの実現
- ▶ 自らが望む未来を創造することができる地域社会の構築

#### 市民等の声

##### 児童生徒・保護者・教員のアンケート調査

- 町田市の教育において皆が目指す姿として、「感謝の心を大切に出来る人」、「お互いを認め合える人」、「自分にも他人も優しく出来る人」の回答が上位
- ▶ 教育を通じて、自分を知るとともに他者と関わり、他者への理解を深めることを重視

#### 市の課題

### 課題解決し目指す姿

##### 町田市が取り組むべき課題

- |                    |                  |
|--------------------|------------------|
| ① 未来を見据えた学びの推進について | ③ 学びの環境整備について    |
| ▶ 自ら学び続けることができる    | ▶ 学びの環境が整備されている  |
| ② 一人ひとりの学びの保障について  | ④ 学びを支える体制について   |
| ▶ 誰でも学ぶことができる      | ▶ 地域とともに学ぶことができる |

「ウェルビーイング」

近年、国内外で「ウェルビーイング(well-being)」という言葉が注目されています。このウェルビーイングは、肉体的、精神的、さらには社会的に満たされている状態を表し、短期的な幸福のみならず、生きがいや人生の意義など将来にわたる持続的な幸福ということで、一言で表すと「一人ひとりの充実感」といえるのではないのでしょうか。

そして、このウェルビーイングは、教育を考える際においてもとても大切な考え方です。

例えば、学校教育における「個別最適な学び」や「協働的な学び」、「キャリア教育」や「コミュニティ・スクール」等の取組は、一人ひとりの子どもが自分に適した学びに出会い、好きなことに夢中になって取り組み、友達や大人とともに学びを深め、自己実現に向けて粘り強く取り組んでいくことで、個人のウェルビーイングの向上につながります。

また、「教員の働き方改革」については、町田市では単に教員の時間外勤務時間数を縮減することを目的とせず、教育の専門家として子どもに向き合う時間と質が高まることで、教師としてのやりがいを高め、教員としてのウェルビーイング向上への取組としています。

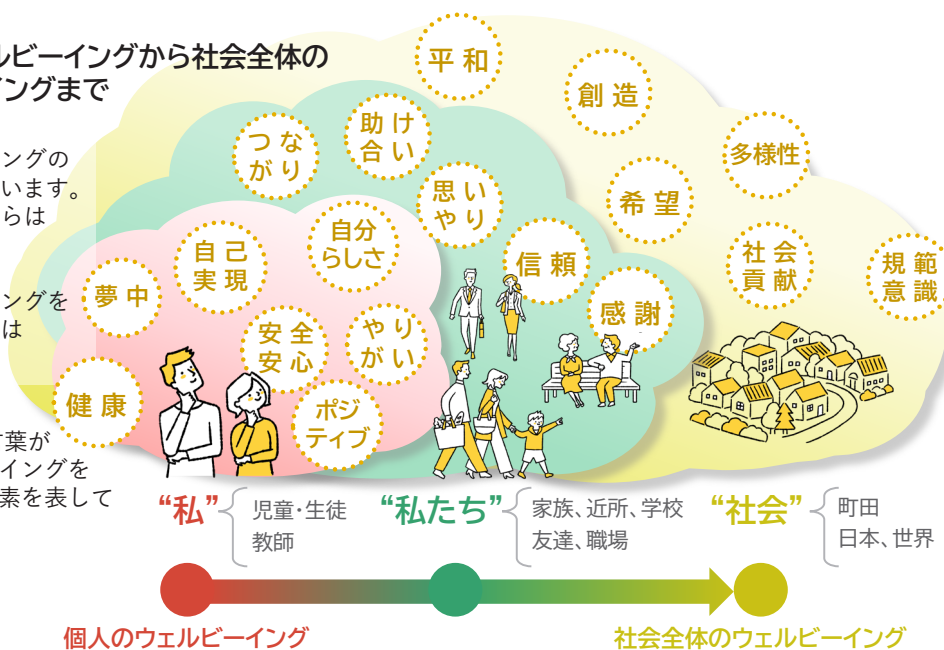
さらに、生涯学習においても、リカレント教育、リスキリングといった、自分の望む未来のために学び直すということが注目されています。生涯学習では、学びを生かし地域社会とつながることで、個人のウェルビーイングのみならず、社会全体のウェルビーイングを実現していくことにもつながります。

このように、ウェルビーイングの実現に向けて、全ての人が関わる「教育」が果たす役割は、非常に重要であるといえます。学校、家庭、社会で、1人でも多くの方が「学んでよかった」「自分が学んだことが人の役に立った」と思える経験を積み、ウェルビーイングを実現させていくことが、教育目標で掲げる「自ら学び、あなたと学び、ともに創る町田の未来」につながると考えます。

個人のウェルビーイングから社会全体のウェルビーイングまで

右図では、ウェルビーイングの要素を表しています。しかし、これらは一例であり、一人ひとりのウェルビーイングを構成する要素は異なります。

※ 内の言葉がウェルビーイングを構成する要素を表しています。

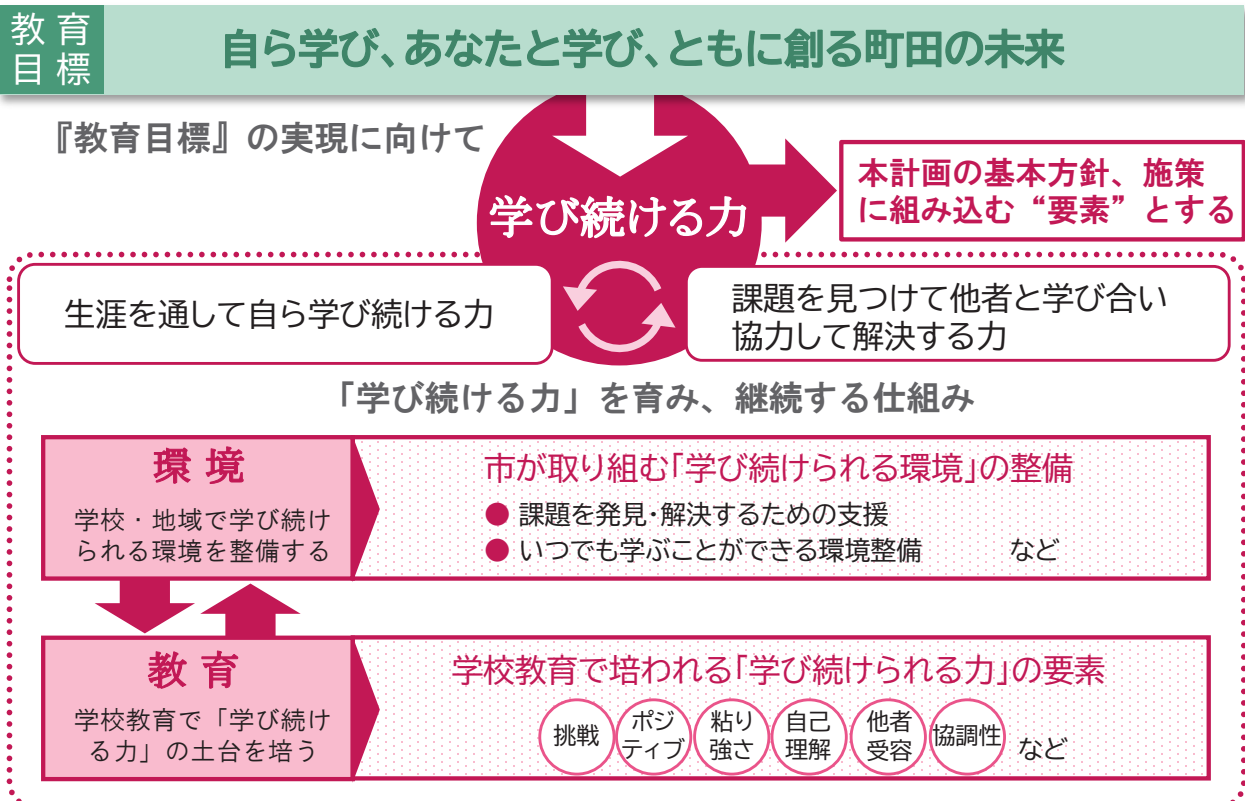


## 2 基本方針・施策に組み込む要素「学び続ける力」

教育目標で掲げる、自らが望む未来を様々な人たちと創造する地域社会を構築していくためには、地域や社会のつながりの中で、主体的に社会の形成に参画し、自分事としてより良い社会とは何かという問いに対し、学びを通して課題を見つけ、他者と協力して解決していくことが求められています。生涯を通じて学び続けていくことで、日常生活での楽しみや心の豊かさが得られるとともに、人間関係の構築や視野の拡大等により、生活がより豊かになります。加えて、他者との学び合いの活動の場を広げることで、発見や気づき、新たな考えの創出につながるなど学びの相乗効果が得られます。また、学んだ成果を市民活動や地域活動の中で生かすことで、地域がより豊かになります。

このようなことから、これからの町田の未来を考えたときに、全市民が生涯にわたって学び続ける学習者としての土台を学校教育で培うとともに、いつでも学ぶことができる環境を生かし、生涯を通じて学び続けていくことが、より良い町田を創るために欠かせないことと捉え、「学び続ける力」を本計画の基本方針・施策に組み込む要素とします。

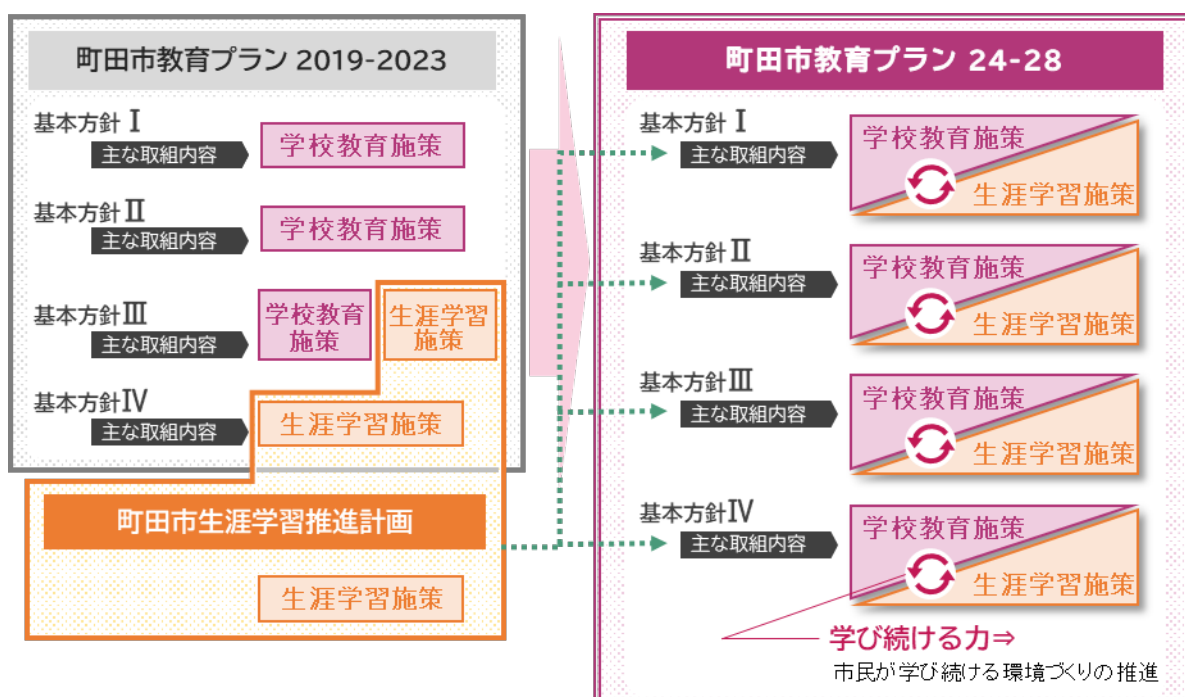
### <学び続ける力>



### 3 生涯学習推進計画の教育プランへの統合

これまで生涯学習を推進する計画として、教育プランとは別に生涯学習推進計画を策定し、施策や取組を進めてきました。しかし、社会の急速な変化や教育環境を取り巻く状況が大きく変化する中で、市民がライフステージに応じて切れ目なく必要な技術や知識を身に付けることや、生活に豊かさをもたらすことができるように、今後はこれまで以上に地域及び学校と連携し、生涯にわたって市民の学習の「しやすい」環境づくりを推進することが必要となります。

このため、本計画では生涯学習推進計画を統合し、従前の施策に加え、生涯学習の施策と学校教育の施策を同じ方針に織り込み、市民が学び続ける環境づくりを推進します。



## 4 計画策定にあたり必要な視点

教育目標の実現を目指し、町田市の特徴を最大限に生かすとともに、持続可能で魅力があり、教育に関わる全ての人々が満足感を得られる計画とするため、以下の3つの点を計画策定にあたり必要な視点とするとともに、重点事業として位置づけるための基準とします。

### デマンド サイドの視点

(サービスを受ける  
側の視点)

- ・児童生徒や保護者、教員、市民の満足度を向上させるため、デマンドサイドの視点を取り入れます。
- ・児童生徒などが求めている様々なニーズをしっかりと捉え、短期的な取組だけではなく、中長期的な取組を見据えた制度設計を行い、持続可能な施策とします。
- ・教員の勤務実態など、置かれている現状をきめ細かく把握・分析し、満足度向上に資する施策とします。

### 経営の視点

(環境変化を踏まえ  
効果的な事業展開  
を行う視点)

- ・計画に位置づける事業については、他自治体や民間事業者の事業をベンチマークし、より効果的な手法や事業内容とします。
- ・環境変化へ即応するため、事業成果が出る前の段階から次の事業展開を見据えることができるような仕組みを構築します。
- ・SDGsやESD※、多様性の理解など社会的な価値観の変化へ対応するため、現時点で想定し得る将来を見据え、事業自体に柔軟な対応がとれるようにします。

※ESD…持続可能な開発のための教育(Education for Sustainable Development)

### 独自性の視点

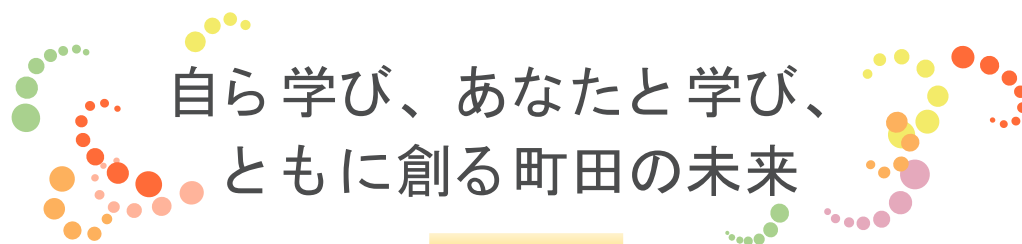
(町田市ならではの  
強みを生かす視点)

- ・市の現状や未来を見据えた状況を考慮した事業内容とします。
- ・町田市ならではの教育を目指し、他自治体に先駆けて実施している新たな学校づくりなどを契機とした魅力的な事業とすることで、町田の教育の質を高めます。



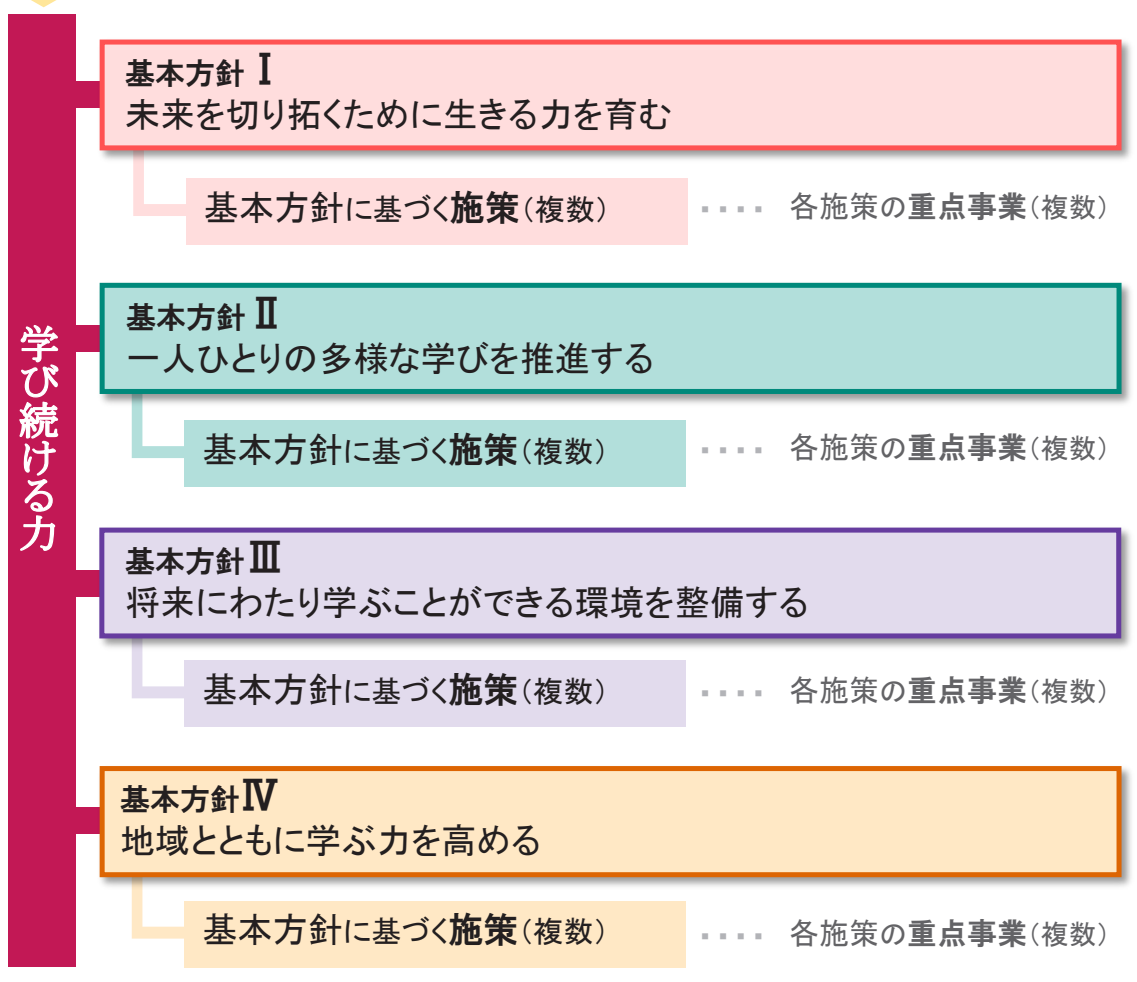
## 5 基本方針と施策の体系

### (1)教育目標、学び続ける力、基本方針の関係



実現するための取組

基本方針・施策に組み込む要素



計画策定にあたり必要な視点

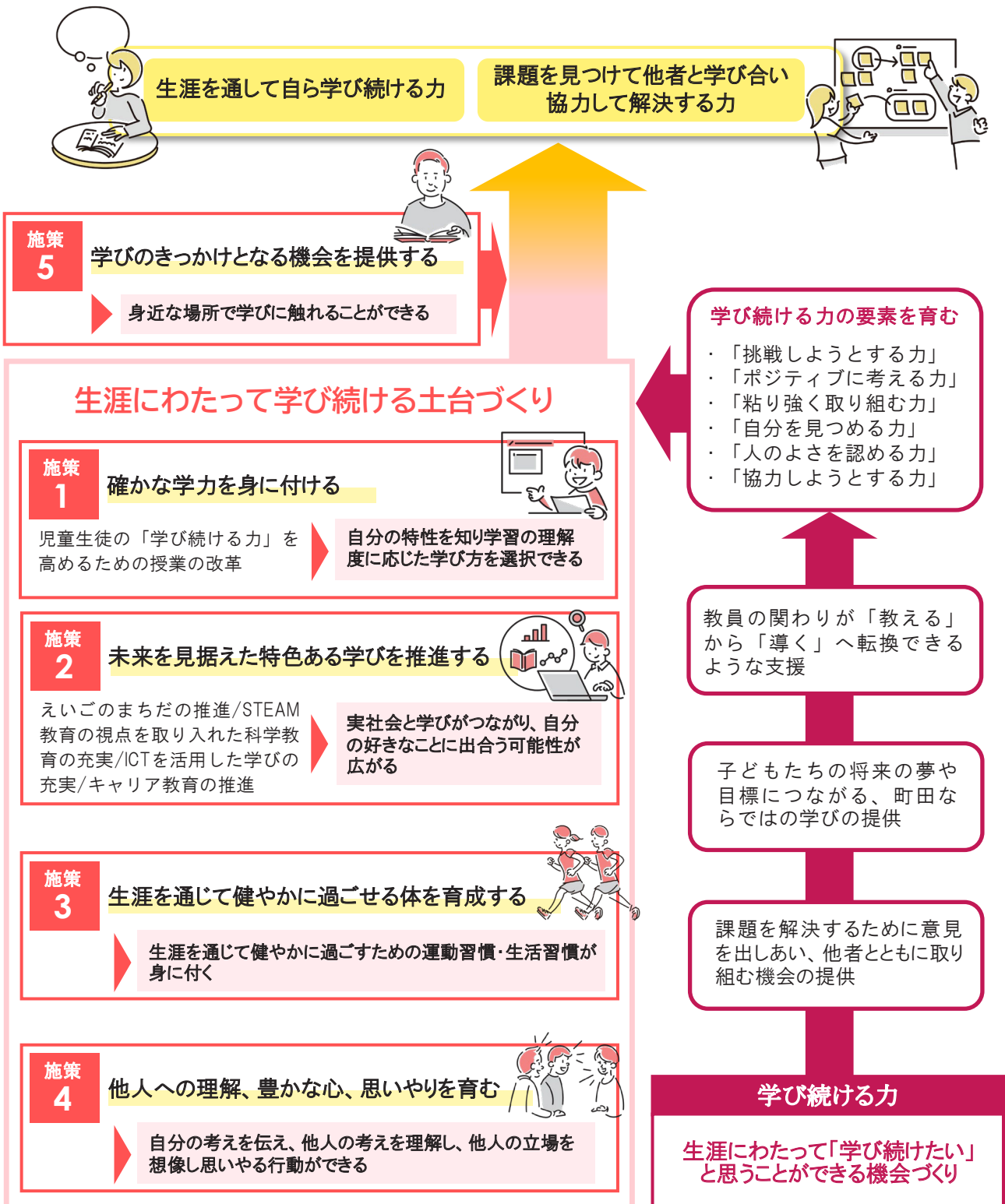
- (1) デマンドサイド(児童生徒、保護者、教員、市民)の視点
- (2) 経営の視点
- (3) 独自性の視点

## (2)4つの基本方針の内容

### 基本方針Ⅰ 未来を切り拓くために生きる力を育む

<内容> えいごのまちだ推進事業など、町田ならではの強みを生かし、これからの時代に必要な知識・技能・判断力・表現力・創造力・粘り強さやコミュニケーション能力を学びのプロセスを通じて育みます。

<目指す姿> 自ら進んで目標を設定しその達成に向け、振り返りや学習方法の工夫をするなど学び続ける基盤を身に付け、生涯にわたり学びを通じて、社会とつながっている。



## 基本方針Ⅱ 一人ひとりの多様な学びを推進する

<内容>一人ひとりの教育的ニーズは異なるという前提に立ち、それぞれの特性に応じた多様な学びを推進します。

<目指す姿>どのような状況にあっても、学びたいという意欲を妨げられることなく、安心して学びに向き合い、学び続けることができている。



生涯を通して自ら学び続ける力

課題を見つけて他者と学び合い  
協力して解決する力



### 一人ひとりのニーズに応じた環境づくり

施策  
1

不登校児童生徒への支援を推進する

▶ 登校の状況に関わらず学べる



施策  
2

一人ひとりの特性に応じた  
特別支援教育を推進する

▶ 児童生徒一人ひとりにあった特別な支援を受けられる



施策  
3

誰もが学べる機会を提供する

▶ 誰でも学ぶ機会を得られる



教育の提供機会、可能性、  
選択肢を“ふやす”学校の  
体制整備、学校、地域、  
家庭の連携

スクールカウンセラー等の  
専門職や特別支援教育支援  
員の配置等による学校の体  
制整備

教員への研修や保護者へ  
の周知、情報提供、関係  
機関との連携などの体制  
づくり

対象者に合わせたサービス  
等の提供、学びの場の提供

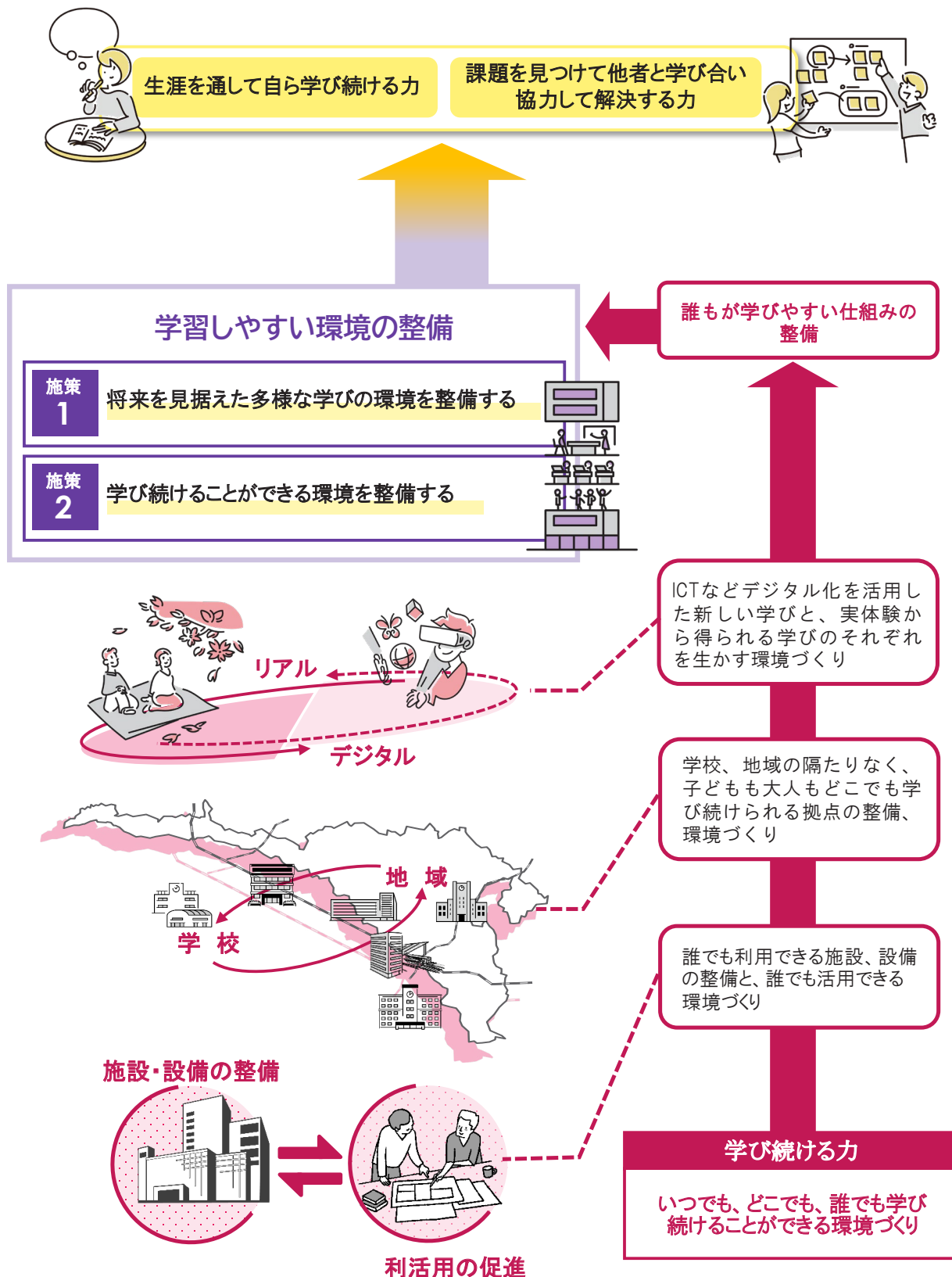
学び続ける力

誰もが安心して学べる場を選択  
できる体制づくり

## 基本方針Ⅲ 将来にわたり学ぶことができる環境を整備する

<内容> 新たな学校づくりを契機とした、子どもも大人も学ぶことのできる学校づくりや、社会の変化に応じて、学習施設だけでなくデジタルでも学びにアクセスできるような多様な学びの環境づくりを推進します。

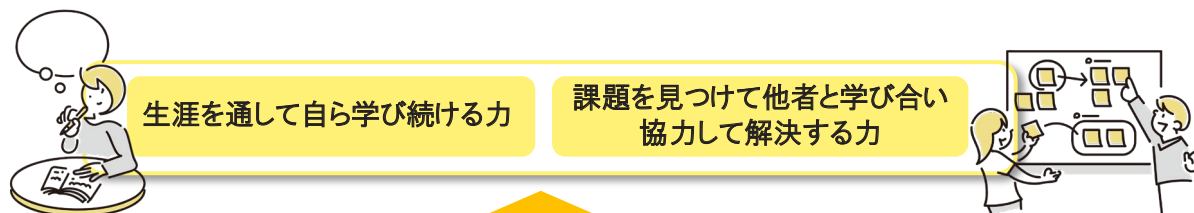
<目指す姿> 環境変化に対応し、いつでもどこでも誰でも学びに出会うことができ、学び続けることができる環境が整備されている。



## 基本方針Ⅳ 地域とともに学ぶ力を高める

<内 容>学校、地域、家庭、市民団体、行政が共創することで、学びの場を広げ、学ぶ力を育む体制を充実させ、地域で学び続ける力を高めていきます。

<目指す姿>地域資源を生かし、共創により学校を中心とした多様な学びが充実し学び続けることができている。



### 学び続ける力が継続する仕組み

施策  
1

学校と地域が連携した学びを推進する

学校と地域の連携

- ・コミュニティ・スクールの活性化
- ・地域人材を活用した専門指導員の導入

児童生徒が豊かな学びを受けられる

施策  
2

地域での学びを推進する

地域活動・市民活動の活性化

- ・地域での学びの拡充
- ・学んだ成果を生かす仕組み

市民が学んだ成果を地域で生かすことができる

施策  
3

教員の働き方を改善する

働き方改革の推進

- ・教員の業務の適正化・縮減
- ・学校への人的支援・体制づくり

教員がやりがいを感じながら、子どもと向き合える

学校・地域を中心とした学びの場、活動の場の創出

児童生徒の豊かな体験の  
機会の創出

市民が地域で活躍できる場  
づくり

教員が働きやすい環境づくり

学び続ける力

児童生徒・市民・教員それぞれが  
学ぶ意欲を向上させる体制づくり

### (3) 施策の体系

#### 施策

#### 重点事業

#### 基本方針Ⅰ 未来を切り拓くために生きる力を育む

1 確かな学力を身に付ける	1 児童生徒の「学び続ける力」を高めるための授業の改革 …>44ページ 2 放課後学習の充実 …>46ページ
2 未来を見据えた特色ある学びを推進する	3 えいごのまちだの推進 …>50ページ 4 STEAM教育の視点を取り入れた科学教育の充実 …>54ページ 5 ICTを活用した学びの充実 …>56ページ 6 キャリア教育の推進 …>58ページ 新規7 町田市の未来の学びLab …>60ページ
3 生涯を通じて健やかに過ごせる体を育成する	8 健康教育の推進 …>63ページ 9 「わかる・できる・楽しい」体育授業の実践 …>64ページ 10 楽しく運動する機会の充実 …>66ページ 11 学校給食を活用した食育の推進 …>68ページ
4 他人への理解、豊かな心、思いやりを育む	12 「いじめを防ぐ・いじめに気付く・いじめから守る」取組の推進 …>72ページ 新規13 児童生徒が主体的に考え、伝え合う機会の充実 …>74ページ
5 学びのきっかけとなる機会を提供する	14 まちだの歴史・文化を学ぶ機会の充実 …>78ページ 15 ことばの魅力を伝える“ことばの扉”事業の推進 …>80ページ 16 子ども・若者の読書活動の推進 …>81ページ 17 学びの入口の充実 …>82ページ 18 学びにつなげる図書館体験 …>83ページ

#### 基本方針Ⅱ 一人ひとりの多様な学びを推進する

1 不登校児童生徒への支援を推進する	19 不登校児童生徒への支援の充実 …>86ページ
2 一人ひとりの特性に応じた特別支援教育を推進する	20 特別な支援を必要とする児童生徒への支援の充実 …>90ページ
3 誰もが学べる機会を提供する	新規21 帰国・外国籍児童生徒等への日本語指導の充実 …>96ページ 22 学びのセーフティーネットの充実 …>98ページ 23 多様な図書館サービスの提供 …>100ページ

施策

重点事業

基本方針Ⅲ 将来にわたり学ぶことができる環境を整備する

1 将来を見据えた多様な学びの環境を整備する	24	学校におけるICT環境の整備 …>104ページ
	25	特別支援学級等の整備 …>106ページ
	26	不登校児童生徒の学習環境の整備 …>107ページ
	27	新たな学校づくりの推進 …>110ページ
	新規28	安心できる通学環境の整備 …>112ページ
	新規29	学校プール施設の機能向上 …>114ページ
	30	学校図書館の機能強化 …>116ページ
2 学び続けることができる環境を整備する	31	生涯学習情報のデジタル化の推進と学習相談体制の整備 …>120ページ
	32	まちだの歴史・文化資源の保存と活用環境の整備 …>122ページ
	新規33	図書館再編と運営体制の構築 …>124ページ

基本方針Ⅳ 地域とともに学ぶ力を高める

1 学校と地域が連携した学びを推進する	34	コミュニティ・スクールの推進 …>128ページ
	35	部活動の地域連携の推進 …>130ページ
	新規36	学校施設活用の推進 …>132ページ
2 地域での学びを推進する	37	地域での学びの拡充 …>136ページ
	新規38	図書コミュニティ施設の運営支援 …>138ページ
	39	地域で活動する図書館ボランティアの育成・支援 …>139ページ
	新規40	学びのネットワークづくりの促進 …>140ページ
3 教員の働き方を改善する	新規41	教員が担う業務の負担軽減 …>146ページ
	新規42	学校支援体制の強化 …>148ページ